

令和7年度 第3回  
静岡市地域包括支援センター運営協議会 次第

日時 : 令和8年3月 13日(金)

19時 15分～21時 00分

会場 : 城東保健福祉エリア

第1、第2研修室

1 開 会

2 地域包括ケア推進課長挨拶

3 地域包括支援センター運営協議会会長挨拶

4 議 題

(1) 令和7年度地域包括支援センター運営体制等評価(市指標)について

資料1

(2) 令和7年度基幹的業務の実施について

資料2

(3) 令和7年度地域包括支援センター運営部会報告

当日資料①

(4) 令和8年度以降の地域包括支援センターの委託について

資料3

5 閉 会

(当日資料)

・次第

・席次表

・地域包括支援センター運営協議会委員一覧

・各区地域包括支援センター運営部会報告書

当日資料①

令和7年度 静岡市地域包括支援センター運営協議会委員名簿

No.	区分	氏名	所属
1	委員	木村 綾	静岡県公立大学法人 静岡県立大学
2	委員	丸山 拓也	静岡県弁護士会
3	委員	杉山 芳野	一般社団法人 静岡県社会福祉士会
4	委員	池ヶ谷 恵子	静岡市民生委員児童委員協議会
5	委員	鈴木 宏明	静岡市自治会連合会
6	委員	朝比奈 伸江	公募市民
7	委員	澳塩 心み子	公募市民
8	委員	佐々木 玲聡	一般社団法人静岡市静岡医師会
9	委員	石野 泰央	公益社団法人静岡県理学療法士会
10	委員	小林 美佐枝	公益社団法人 静岡県栄養士会
11	委員	岸山 真理	公益社団法人静岡県看護協会
12	委員	沼尻 武能	一般社団法人 静岡県精神保健福祉士協会
13	委員	金田 芳典	静岡市ケアマネット協会
14	委員	堀川 敏昭	静岡市介護保険事業者連絡協議会

## 令和 7 年度地域包括支援センター運営体制等評価（市指標）について

## 1 目的等

## (1) 目的

本調査は、前年度の実績を調査する国指標（参考資料①参照）の運営状況調査に対し、市指標の運営体制等評価を行うことにより今年度実績（見込みを含む）を各地域包括支援センター（以下「センター」という。）に向け調査するものである。

また、国指標が各項目について「出来ている」「出来ていない」等の2択の評価に対し、本調査は単に業務等が「出来ている」だけでなく、どの程度出来ているのかを可視化するために、5段階評価としている。

各センターにおいて今年度の活動を振り返るとともに、市においてその業務実施状況及び課題を確認し、必要に応じて改善策を検討することにより、効果的な運営を図ることを目的とする。

## (2) レーダーチャートについて

令和 7 年度地域包括支援センター運営体制等評価表の評価項目（参考資料②）について、「1. 運営体制」「2. 基本業務（相談支援業務、権利擁護業務）」「3. 基本業務（包括的・継続的ケアマネジメント、介護予防ケアマネジメント業務）」「4. 事業連携、その他基本項目」の4つの領域に分けてレーダーチャートを作成し、各センターの R3 年度（長期継続事業開始年度）と R7 年度の自己評価の比較を行った。

<レーダーチャート>（資料 2 - 2）

赤色・・・R3 年度各センター自己評価

青色・・・R7 年度各センター自己評価

■表 1 令和 6 年度地域包括支援センター運営体制等評価

評価項目		レーダーチャートにおける4区分
運営体制	1 事業計画の作成	
	2 事業報告の実施	
	3 三職種の連携	
	4 適切な業務管理	
	5 個人情報取り扱い	
	6 人材育成	
	7 公益性・地域性・協働性の視点での運営	
	8 苦情対応の体制整備	
	9 期日までの報告・届出	
基本業務	10 ワンストップサービスの拠点としての役割	基本業務 (総合相談支援業務、 権利擁護業務)
	11 継続的・専門的相談支援の実施	
	12 専門職・関係機関とのネットワーク構築と活用	基本業務 (包括的・継続的ケアマネジメント、 介護予防ケアマネジメント業務)
	13 権利擁護の視点	
	14 関係機関と連携した虐待対応のための体制	
	15 介護支援専門員に対する個別支援	
	16 包括的・継続的なケアのための体制づくり	
	17 総合事業対象者への適切な支援	
	18 適切な指定介護予防支援業務の実施	
	19 必要に応じた地域ケア会議の実施	
事業連携	20 在宅医療・介護連携に関する現状把握	事業連携、その他基本項
	21 認知症の早期診断・早期対応のための体制整備	
	22 生活支援コーディネーターとの協働	
その他基本項目	23 センターの事務所	事業連携、その他基本項
	24 センター業務の広報・周知	
	25 適切な職員配置	
	26 職員の服務	

## 2 本結果を踏まえての対応

- ・本調査は各センターの主観による自己評価であるため、同程度の取り組みであっても、センターによって評価に差がみられている。このため、1月中旬から2月上旬にかけて各センターに対し訪問によるヒアリングを実施。調査の項目について詳細な聞き取りや今年度の事業の振り返り、次年度の活動計画に向けての助言・指導を実施した。
- ・レーダーチャートでの比較の結果、ほとんどのセンターにおいて、R3年度に比べてR7年度の自己評価が高くなっていた。このことから毎年国及び市の指標による自己評価を基に各センターにて活動内容を見直し、改善してきたことがうかがえる。
- ・一部のセンターではR7年度の自己評価のほうが低くなっているが、この理由としては、過年度に比べて人員が満たされていないため、思うような活動ができていない、もしくはセンター職員が異動等により変更になったことによって、評価に対する考えが当時よりも厳しくなっている等が考えられる。
- ・なお、本調査の評価指標については、長期継続契約が終了する令和7年度までは現行のままとしていたが、令和8年度以降の評価指標については、今回の長期継続契約開始時（R3年度）と地域包括支援センターを取り巻く状況が変化していること、また、R7年度から国指標の基準が新しいものになっていることから、今後精査・見直しを行っていく。

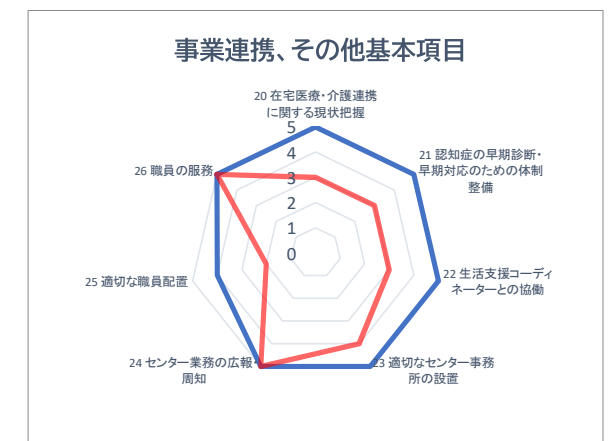
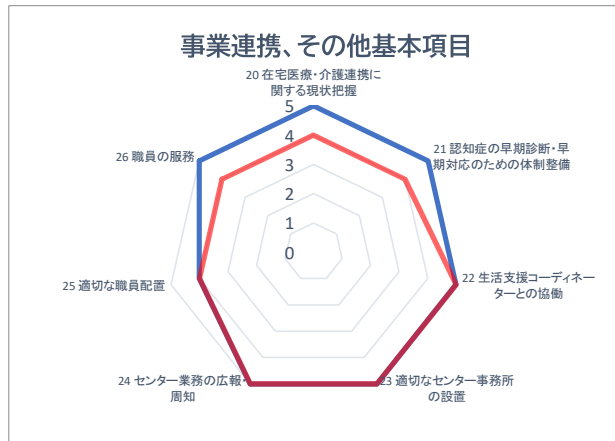
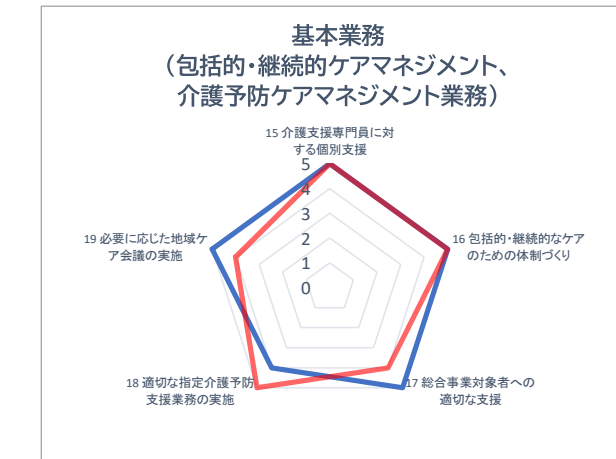
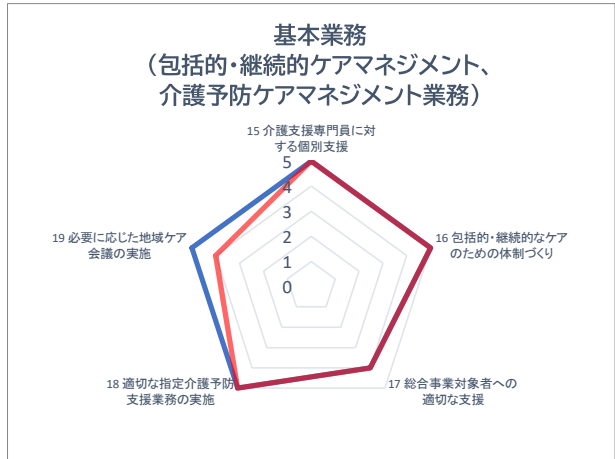
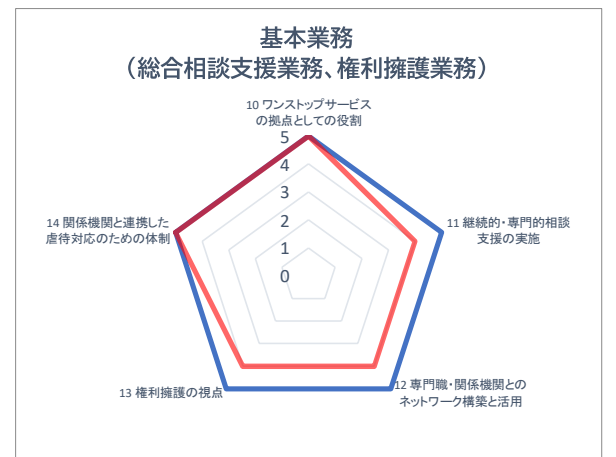
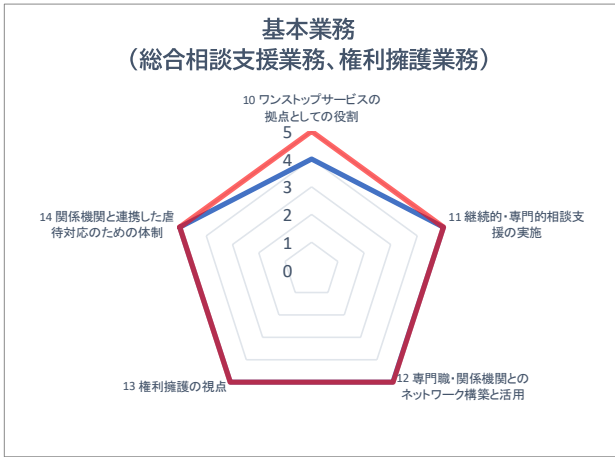
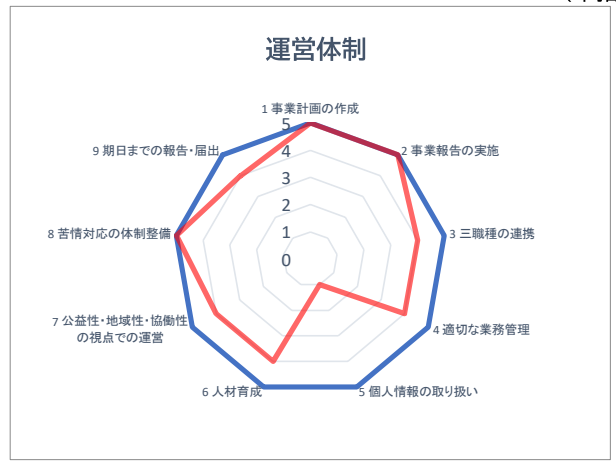
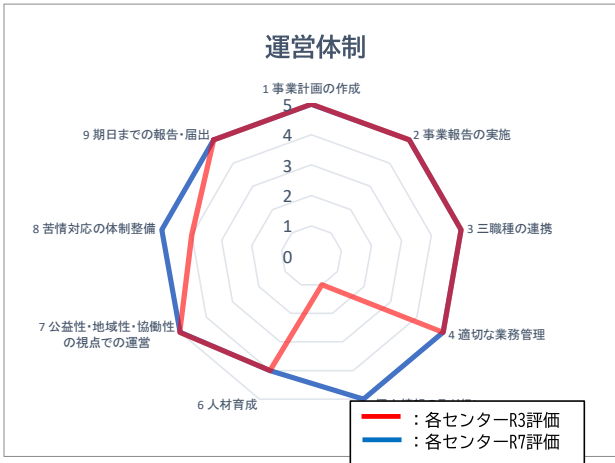
## 3. 国指標について

- ・国指標による運営状況調査は8月に実施。国から評価用のシート（レーダーチャート作成シート）が2月末に提供されたため、このシートをもとに各センターのレーダーチャートを作成し、令和8年度第1回地域包括支援センター運営協議会にて報告する。

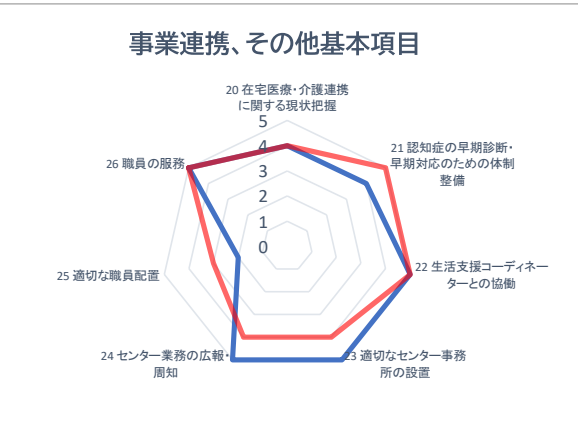
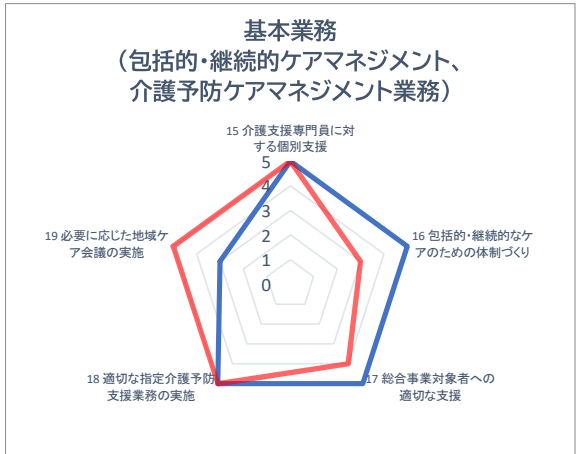
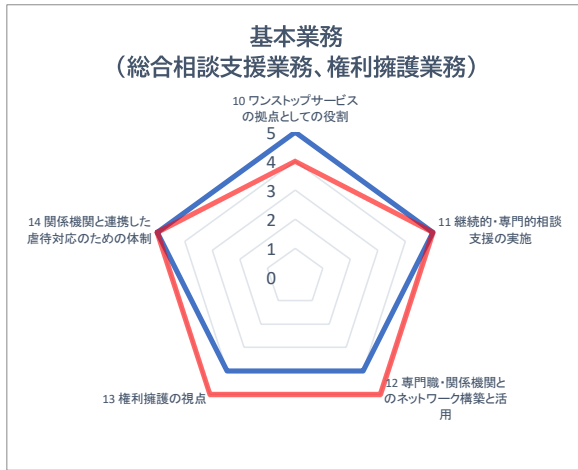
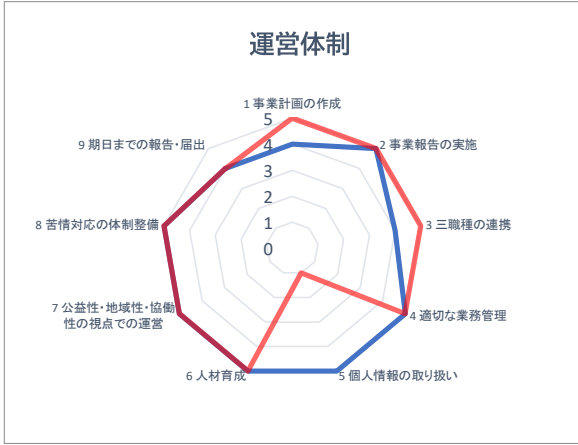
城西

安西番町

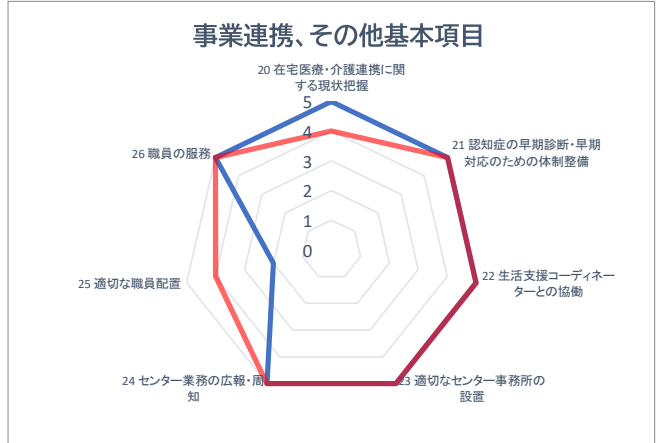
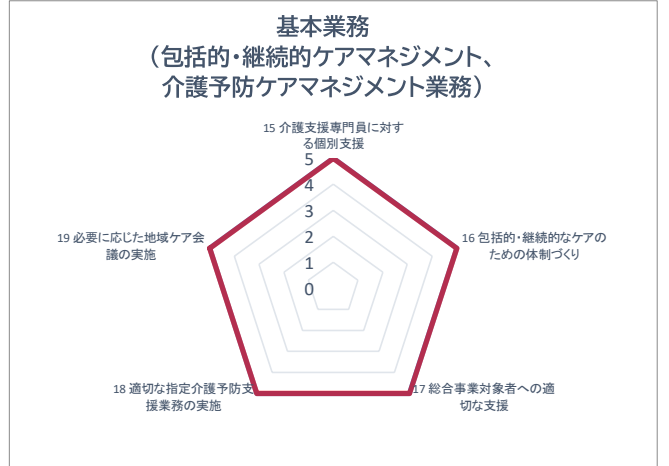
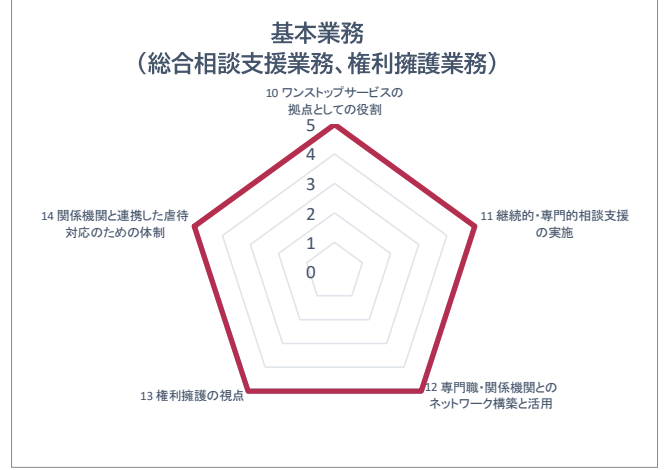
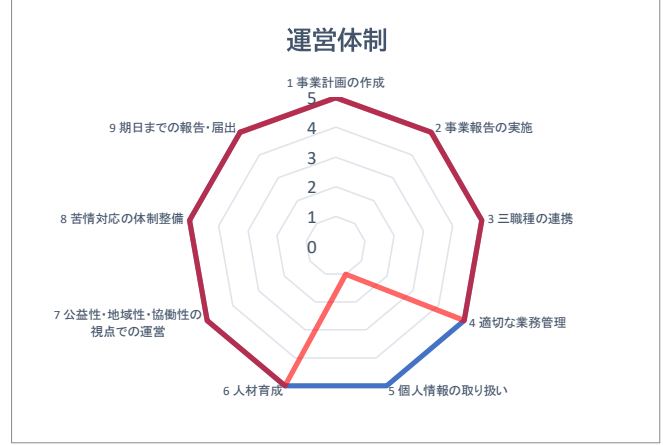
(市指標)



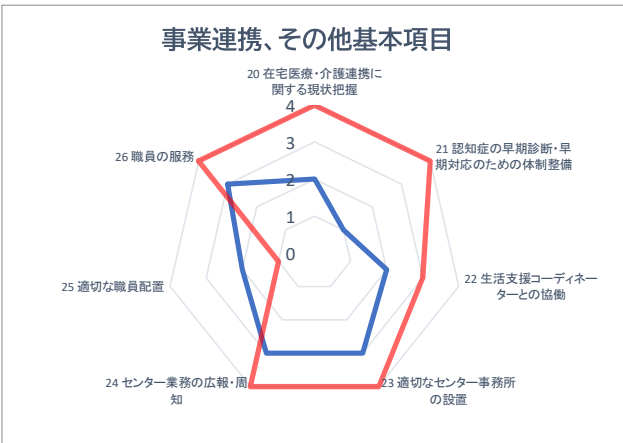
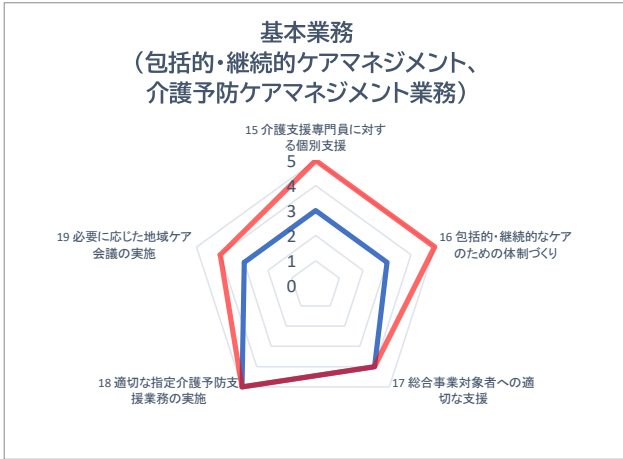
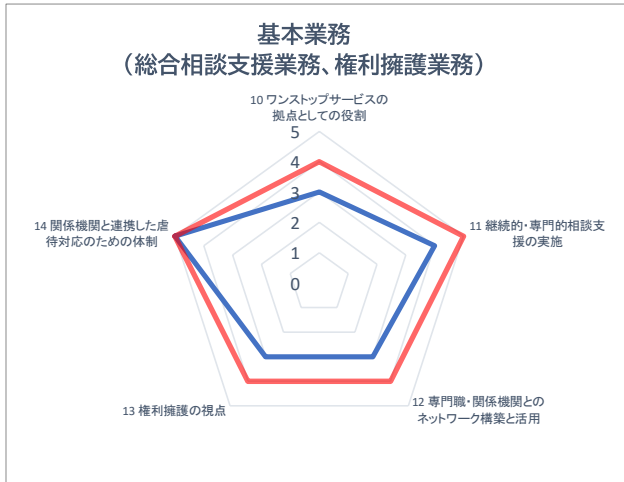
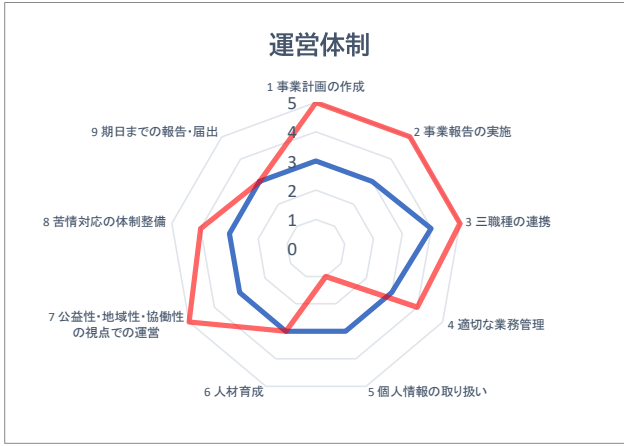
城東



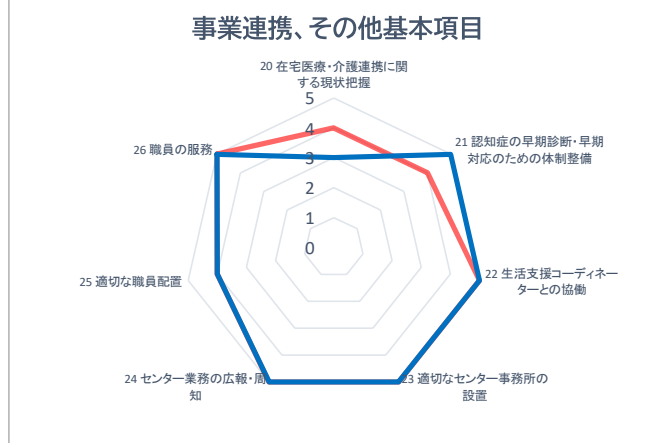
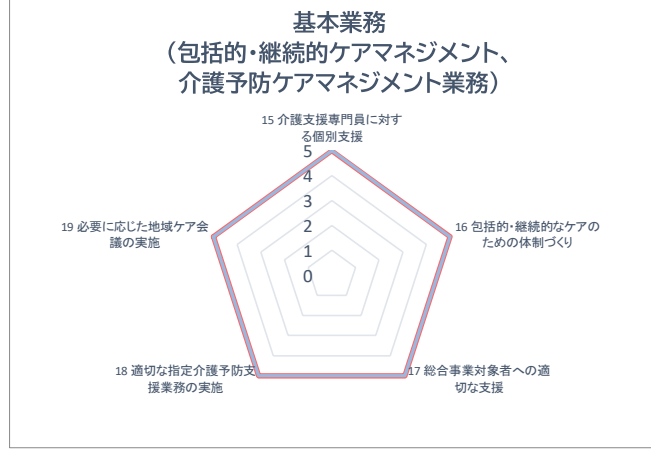
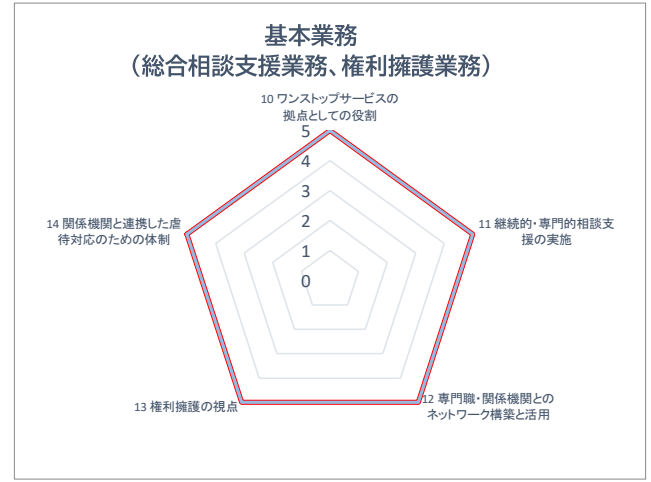
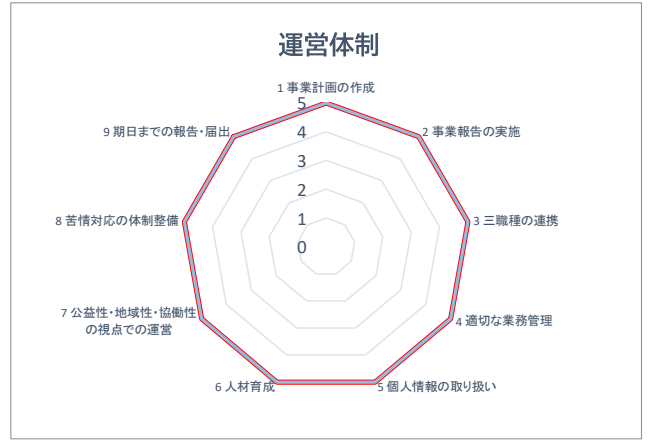
伝馬町横内



城北

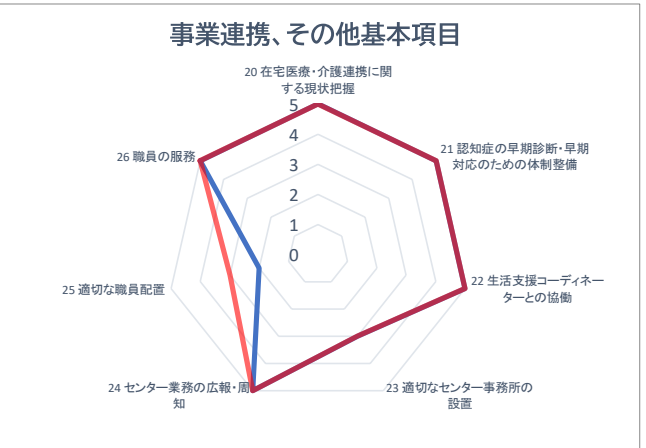
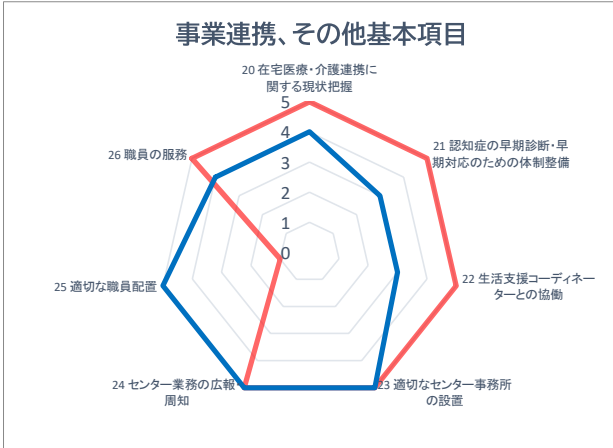
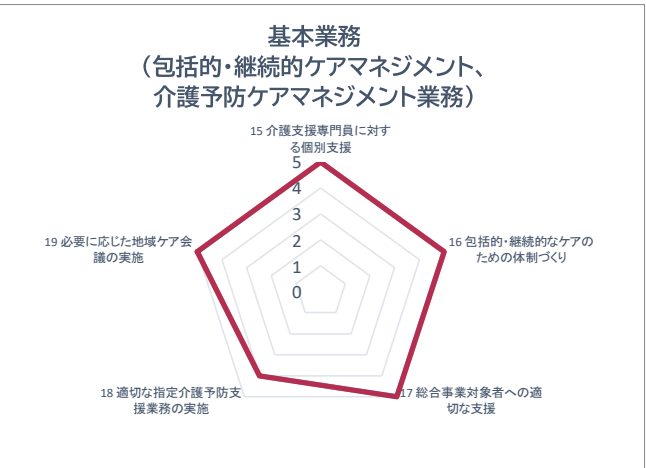
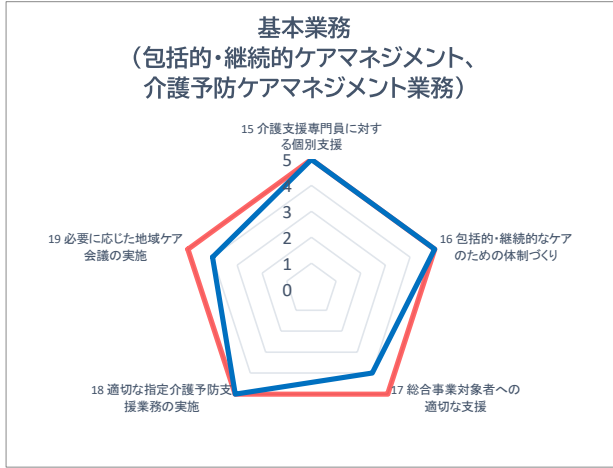
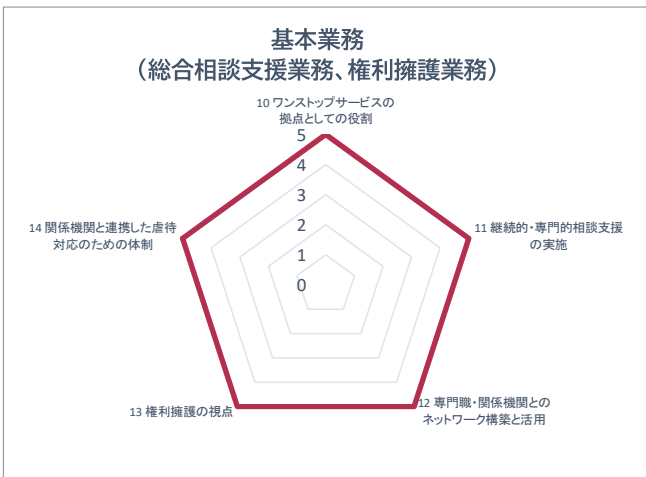
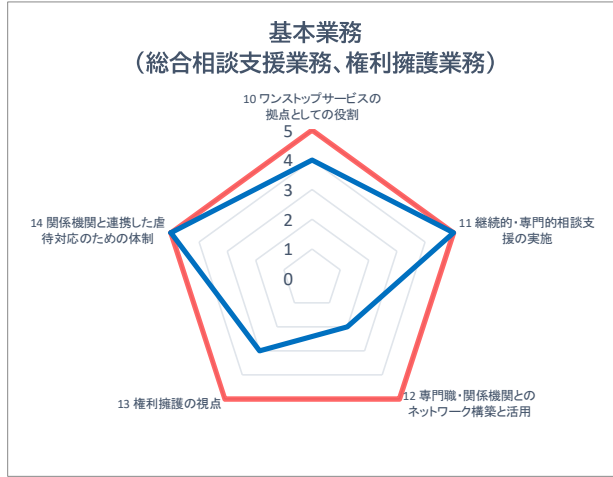
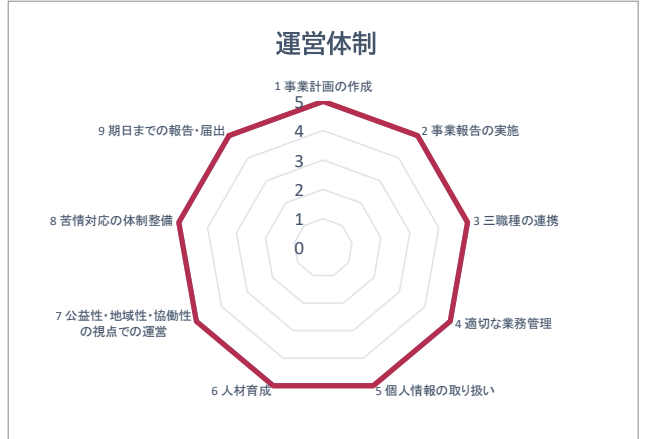
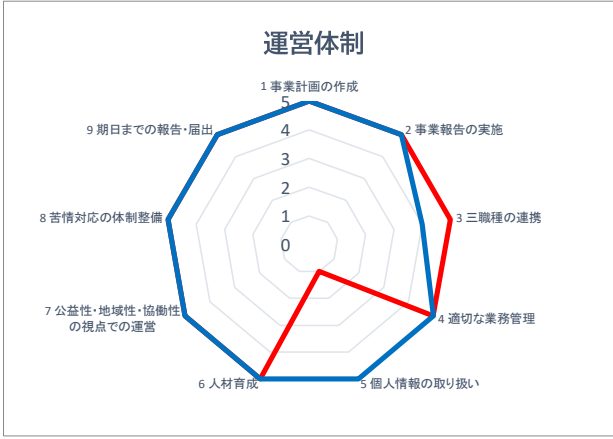


千代田



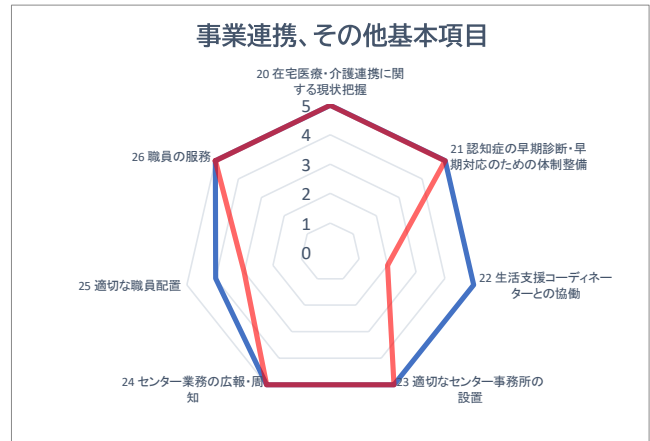
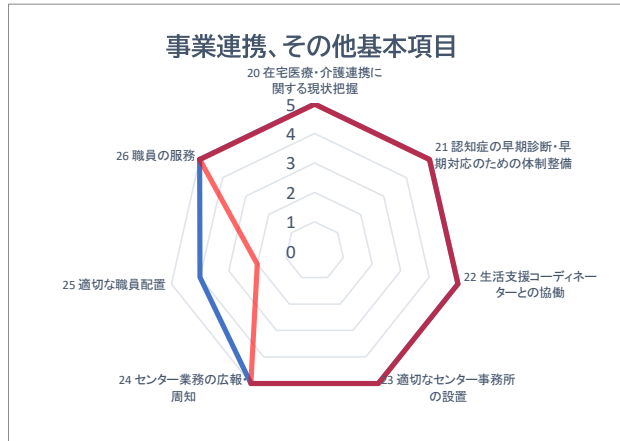
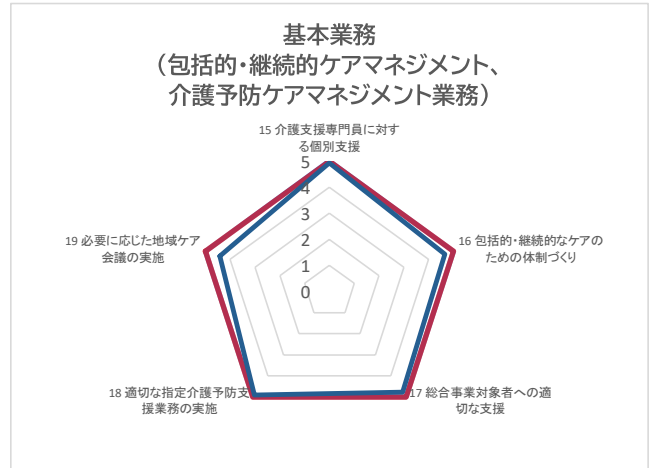
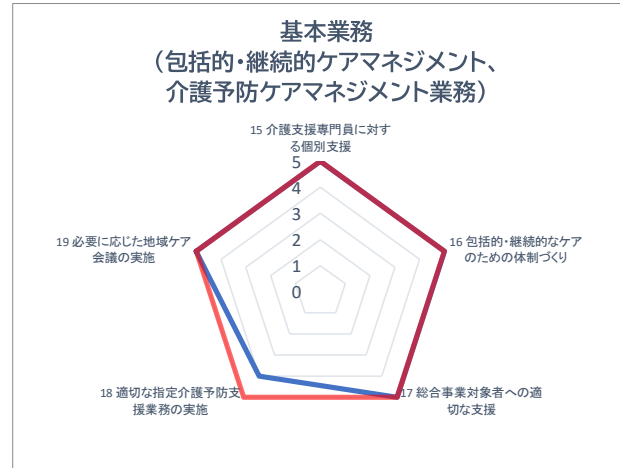
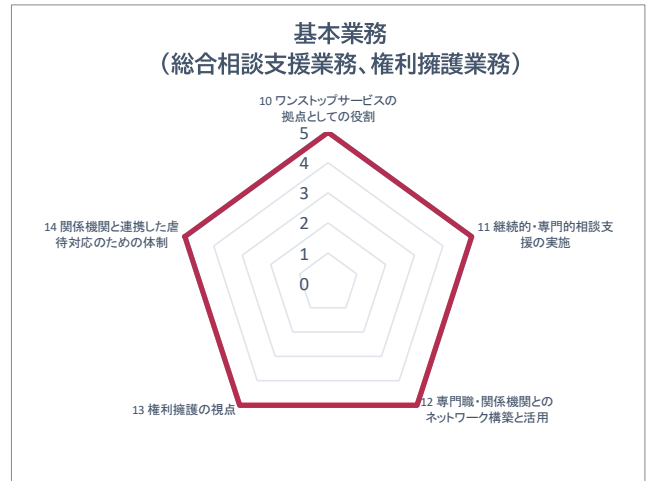
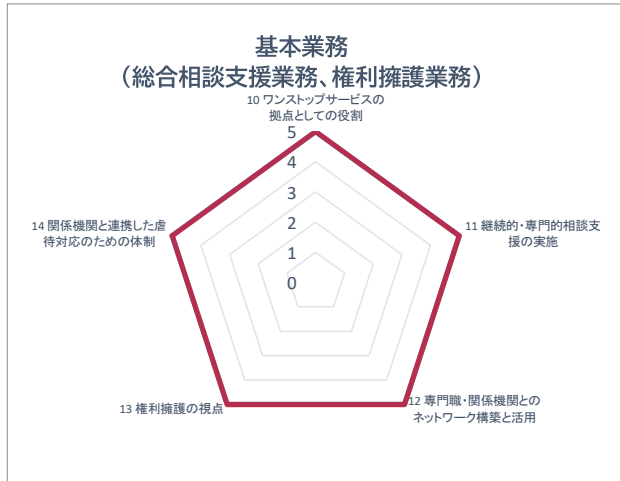
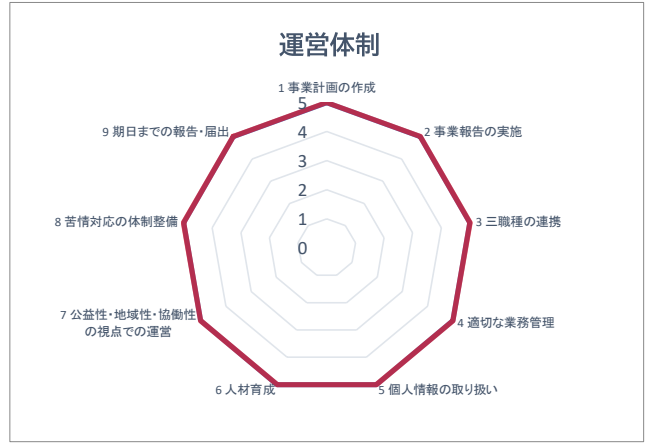
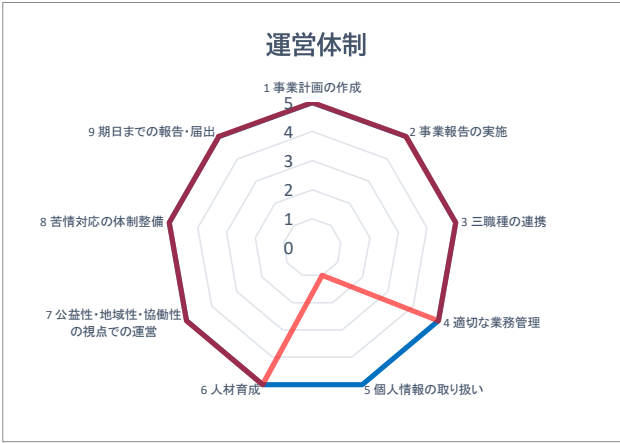
長尾川

美和

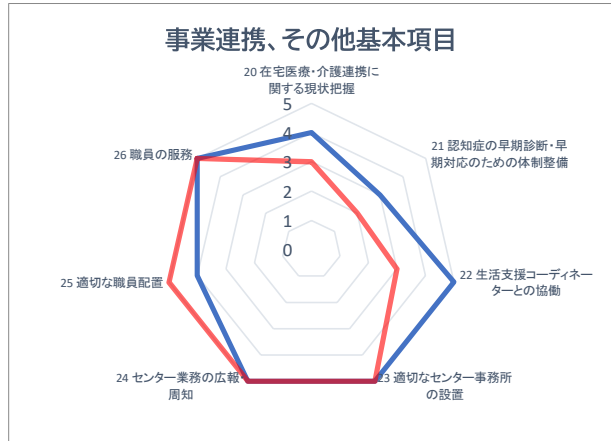
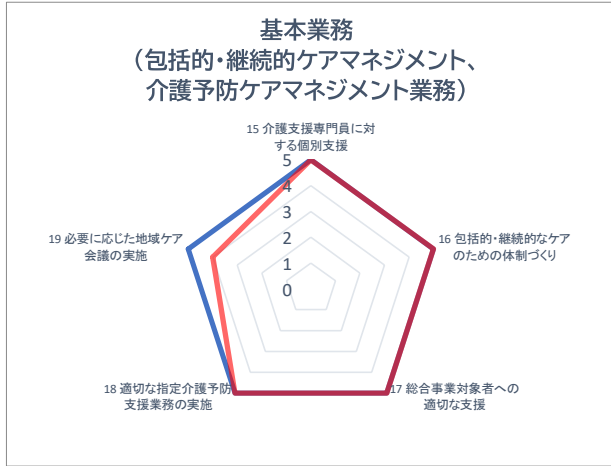
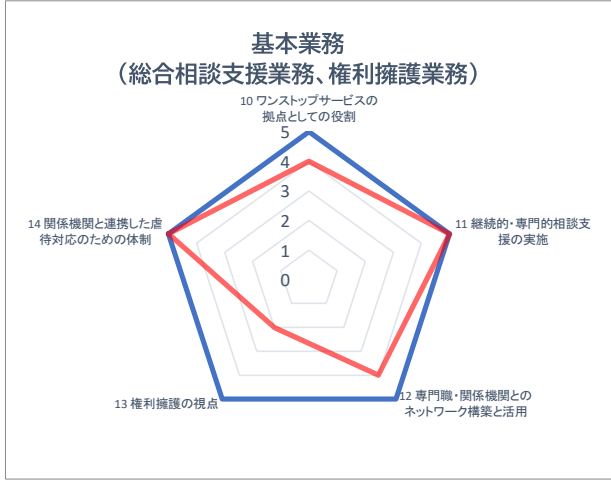
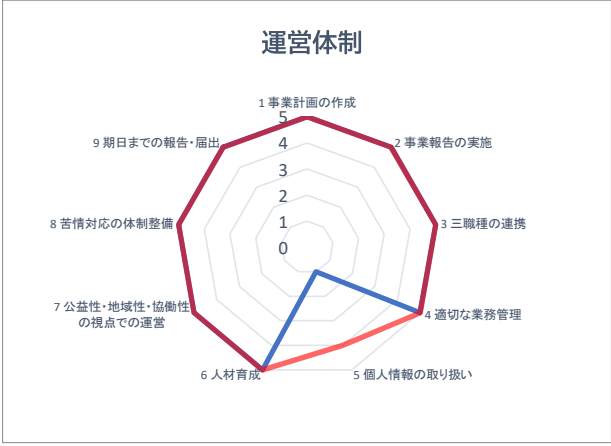


賤機

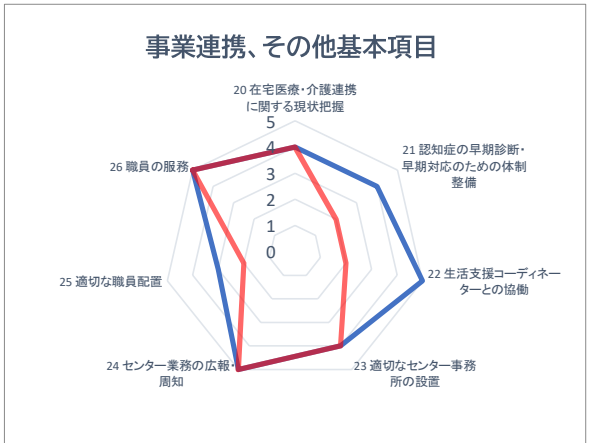
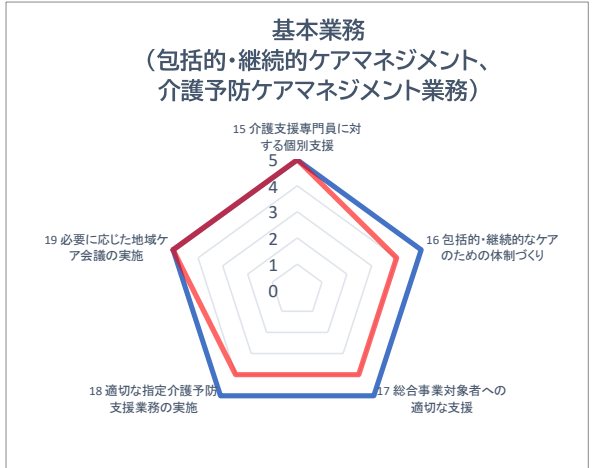
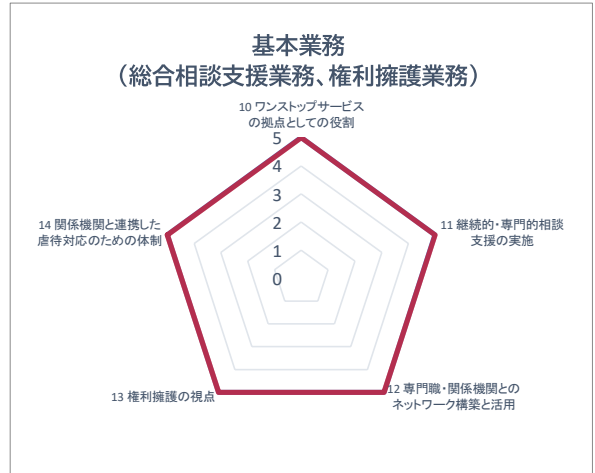
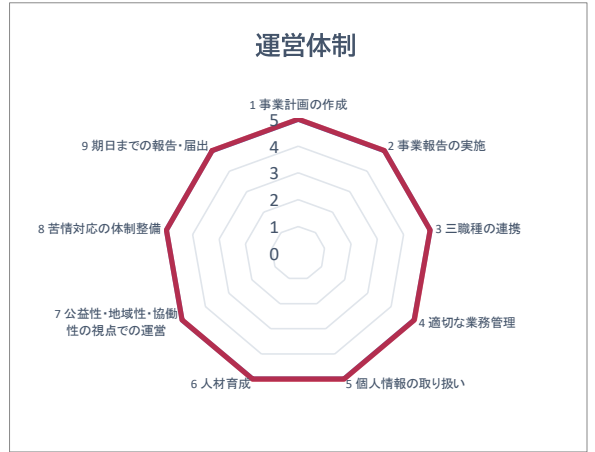
安倍



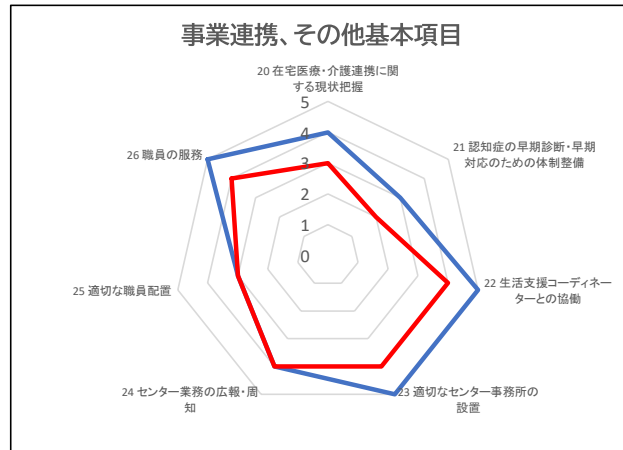
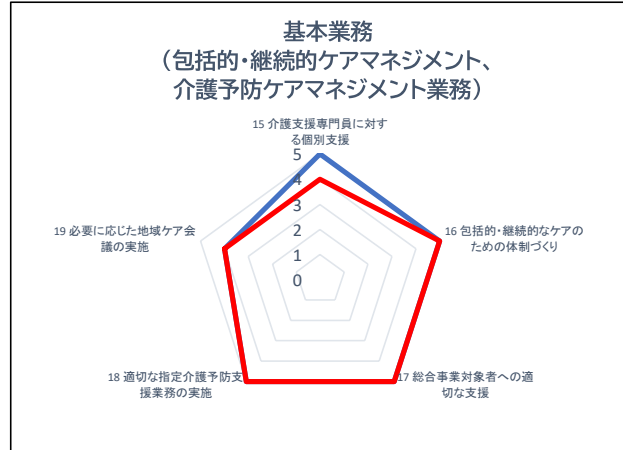
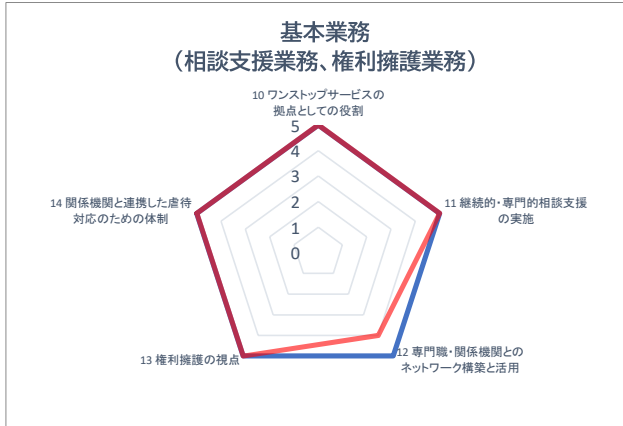
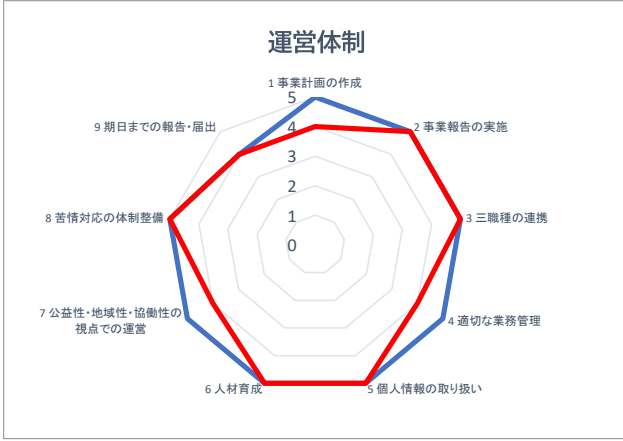
服織



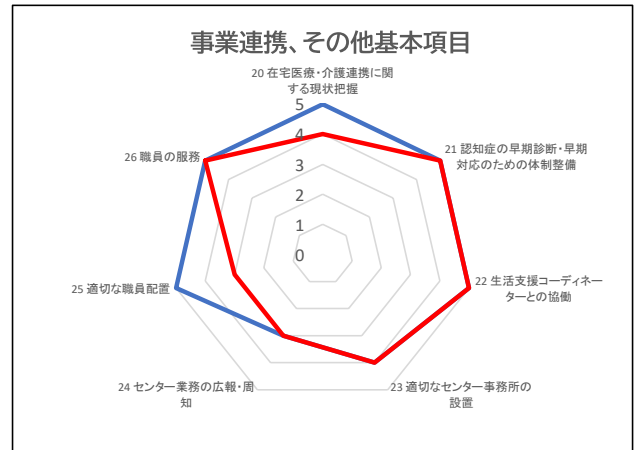
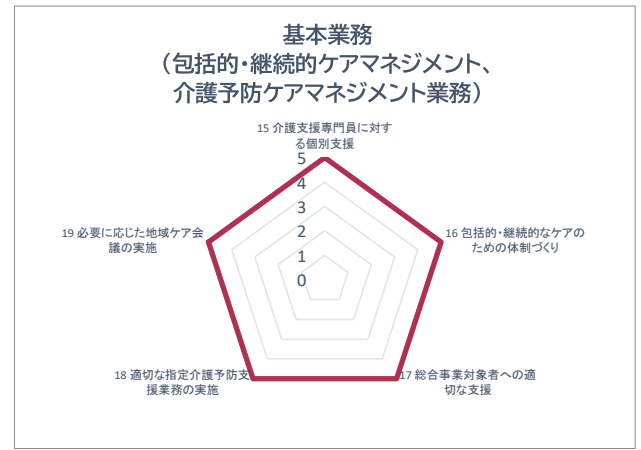
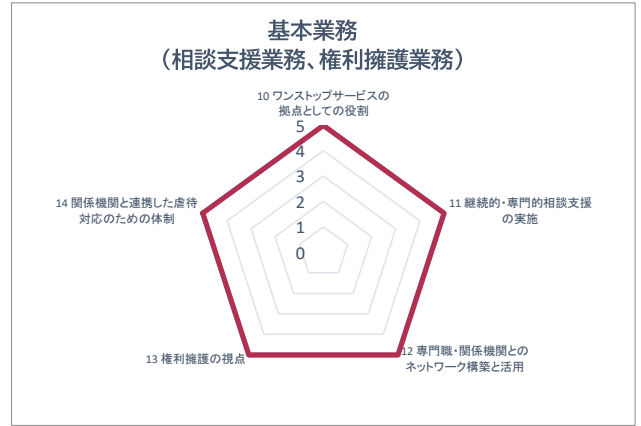
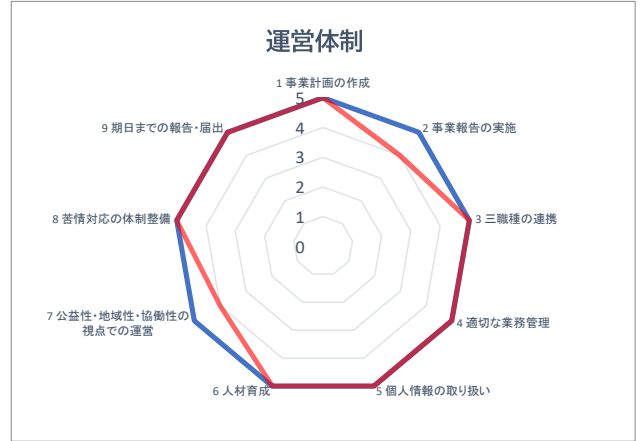
薬科



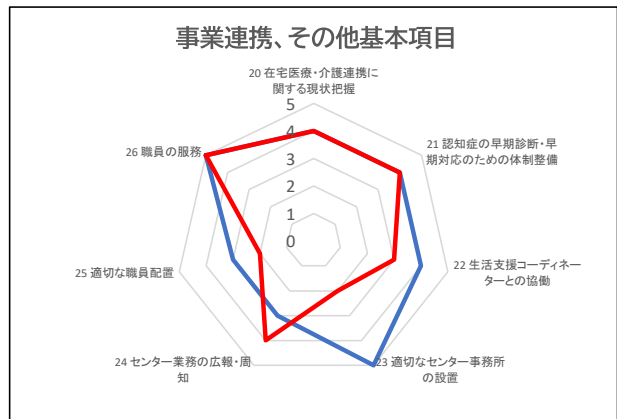
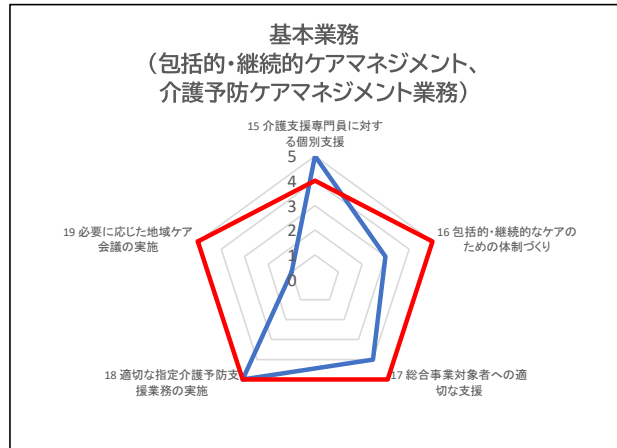
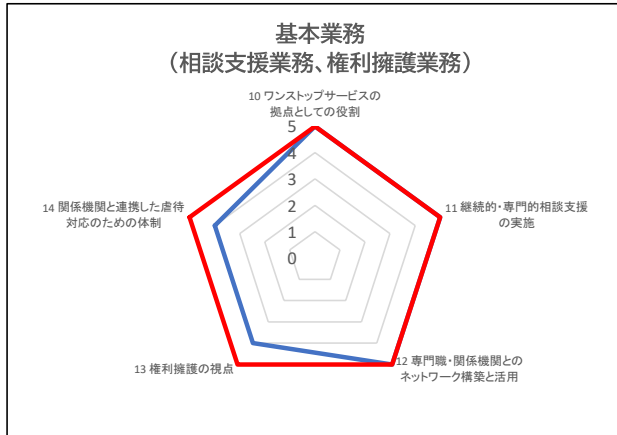
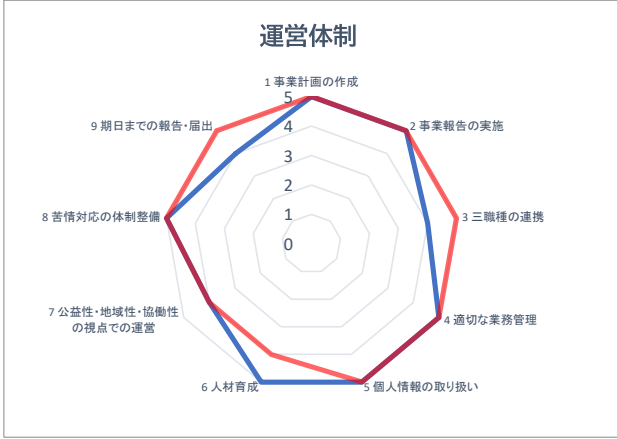
### 小鹿豊田



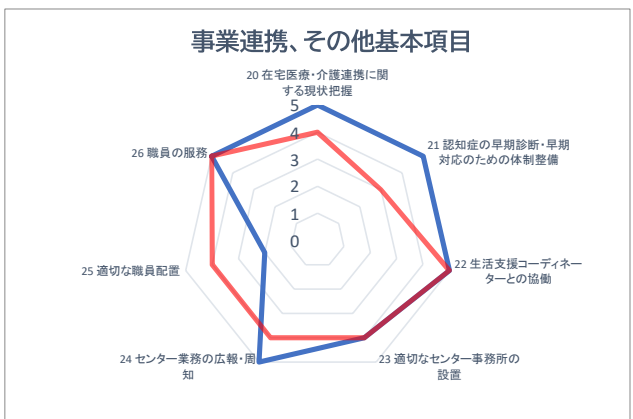
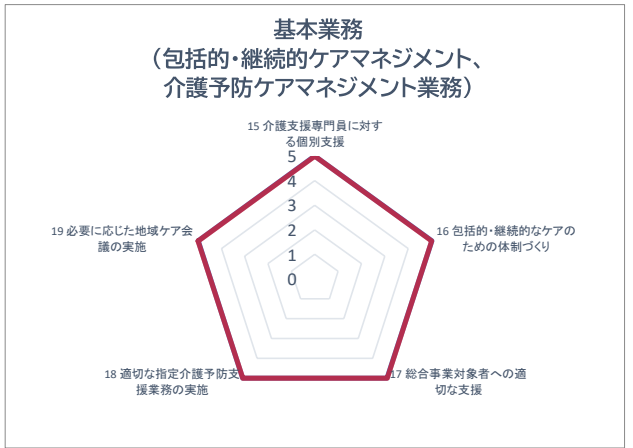
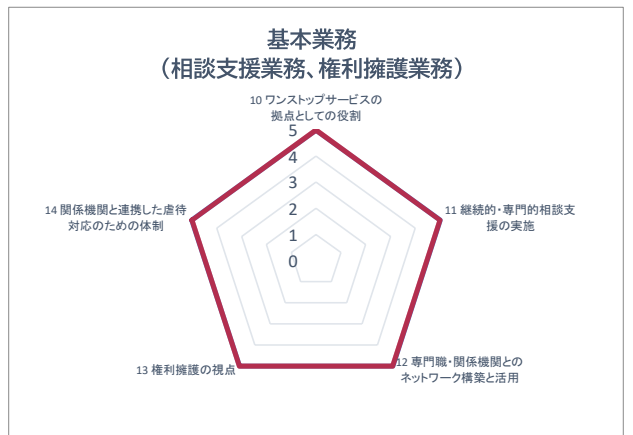
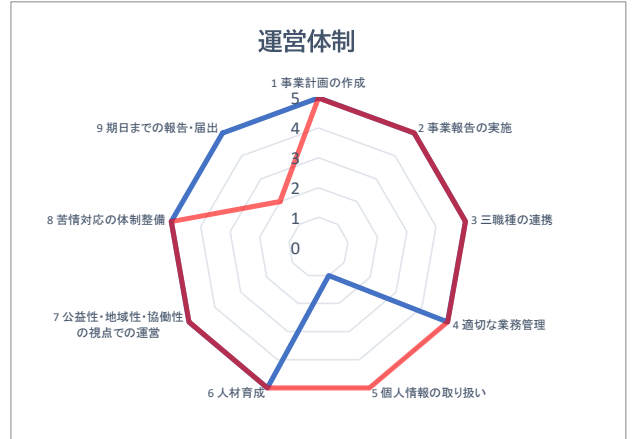
### 八幡山



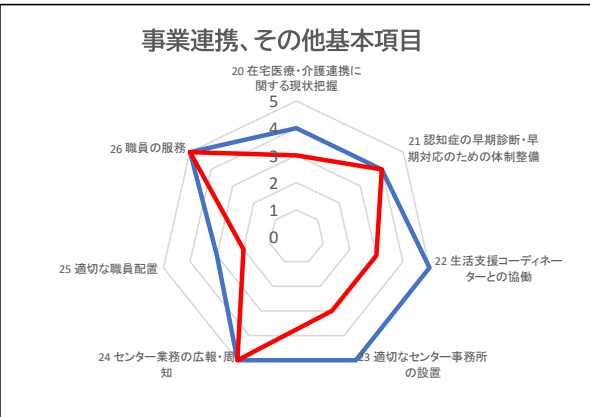
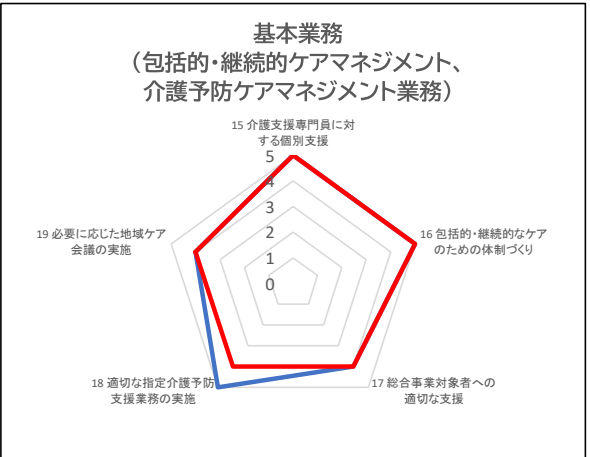
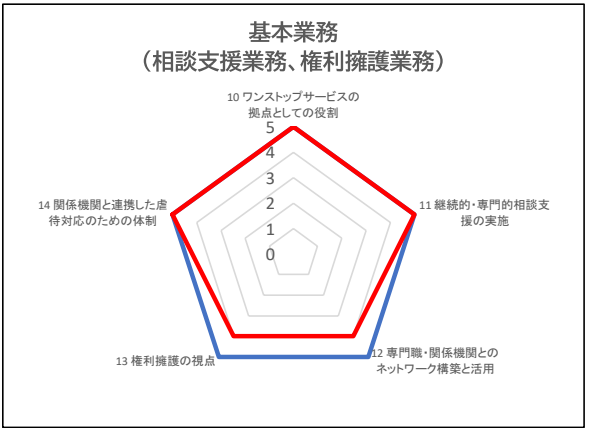
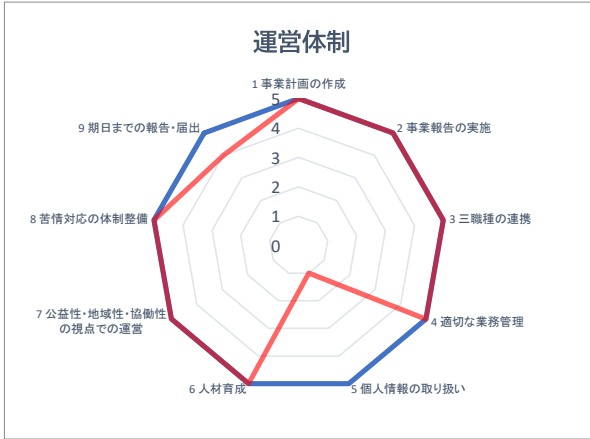
大谷久能



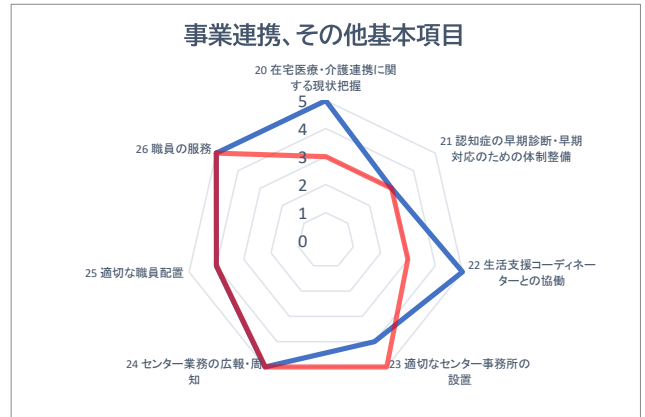
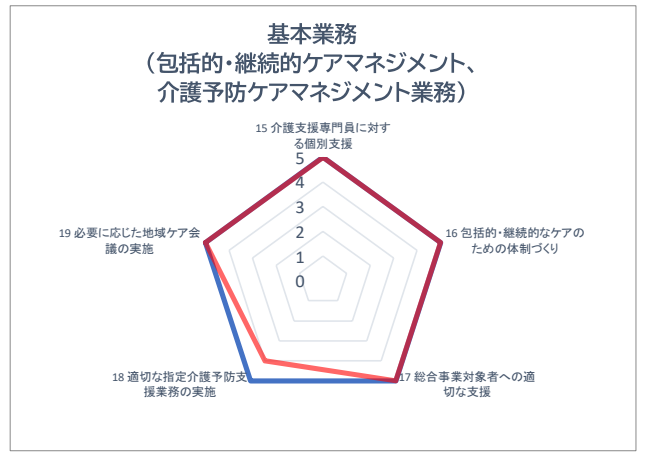
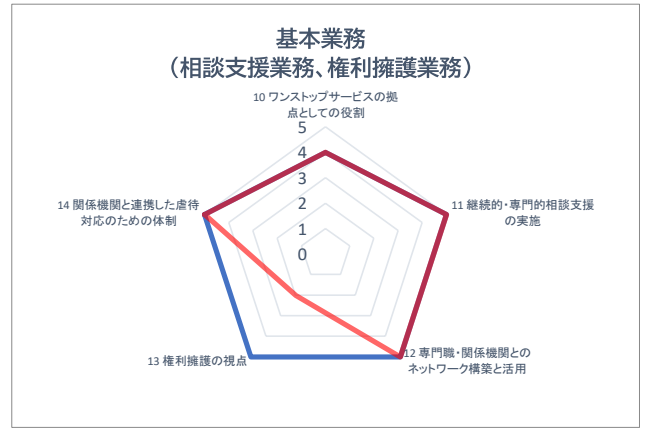
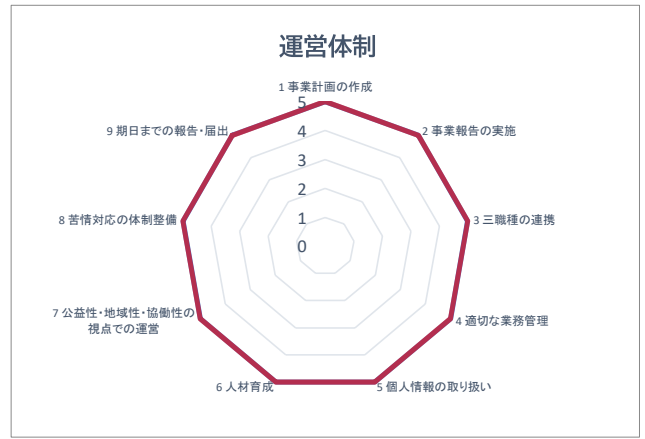
大里中島



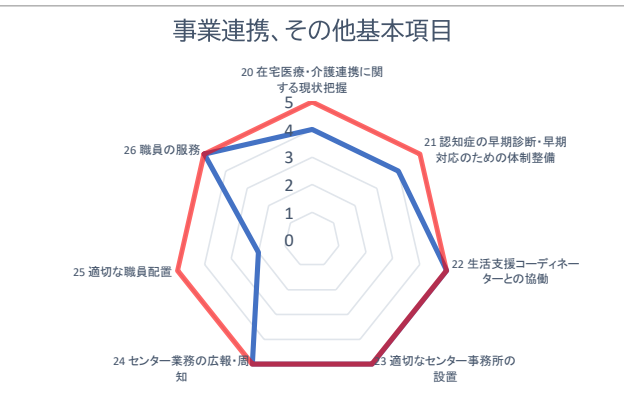
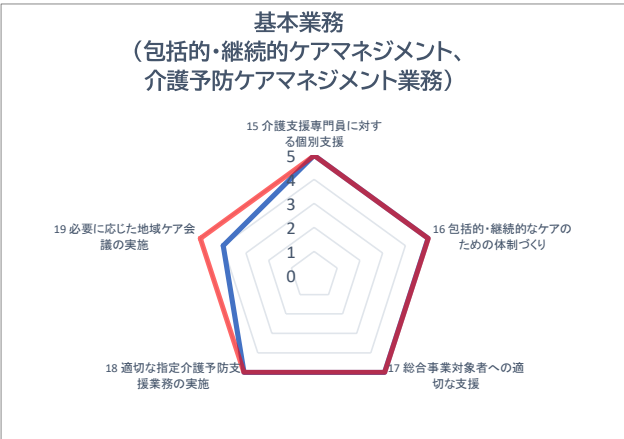
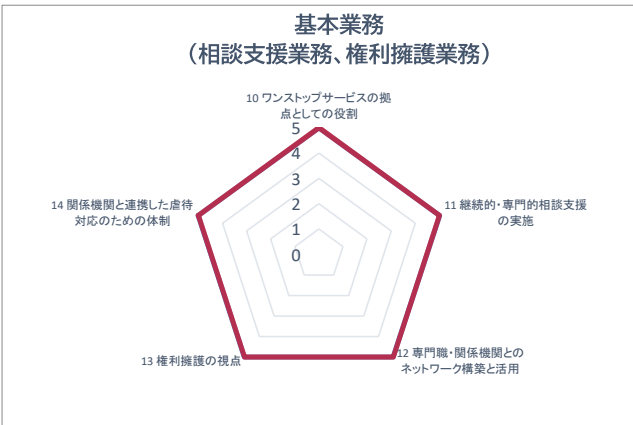
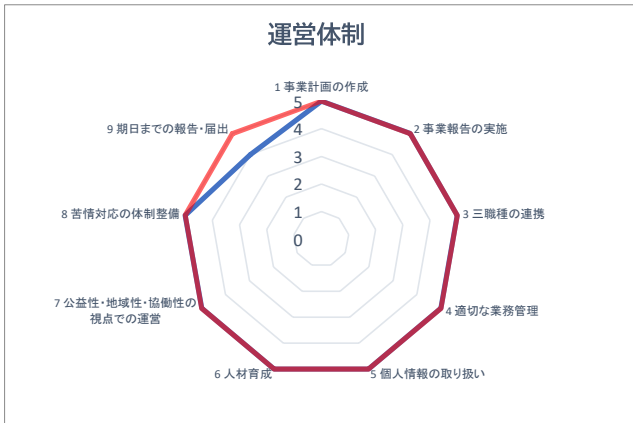
大里高松



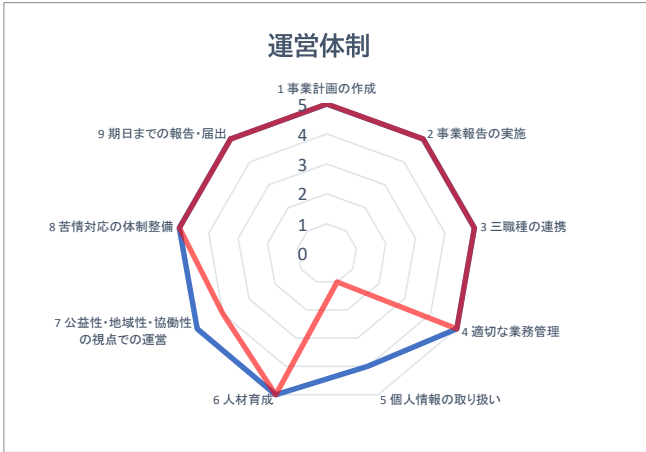
長田



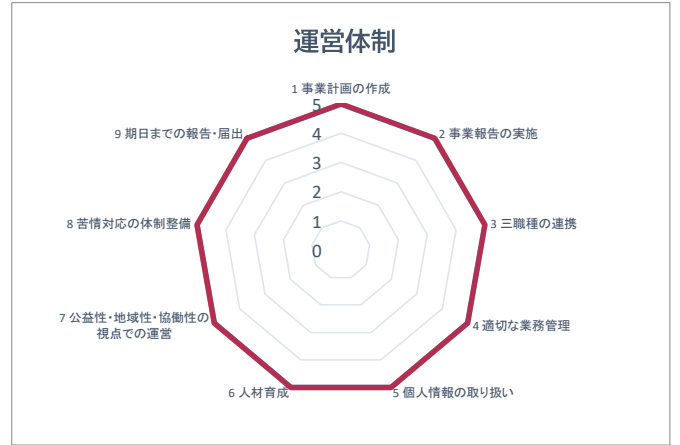
丸子



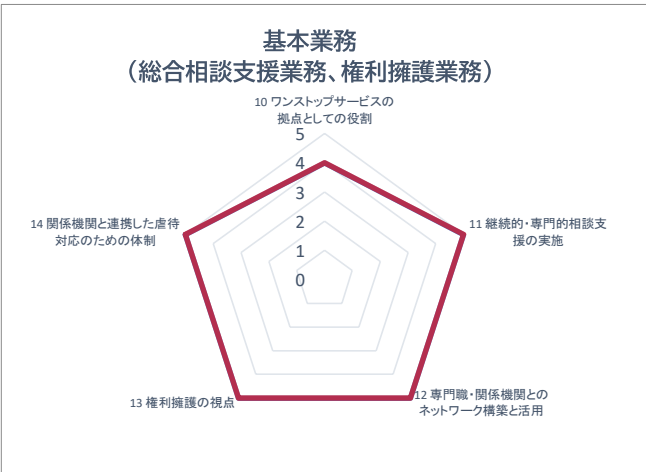
港北



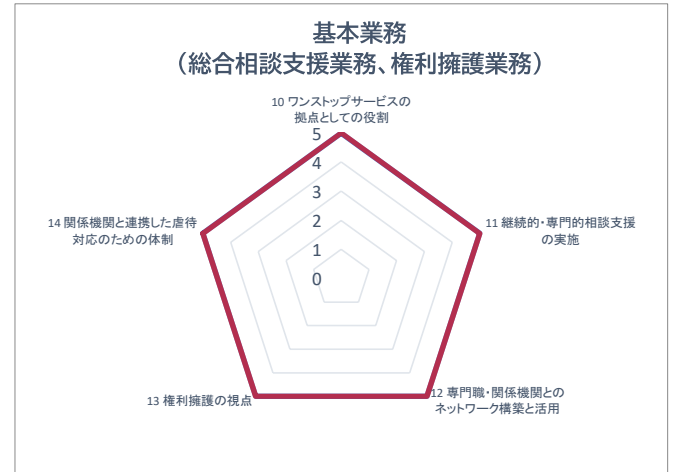
興津川



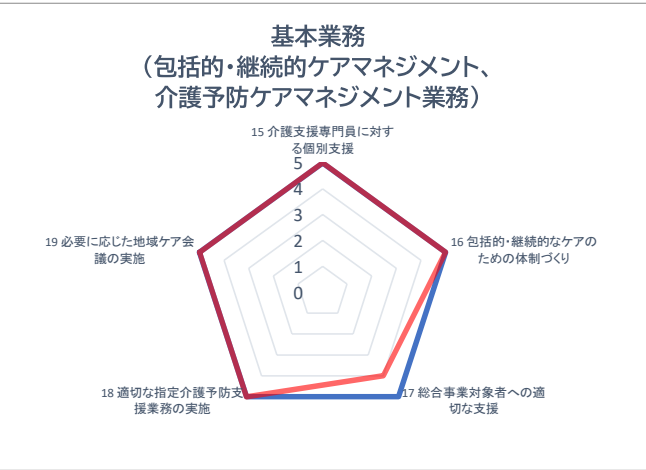
基本業務  
(総合相談支援業務、権利擁護業務)



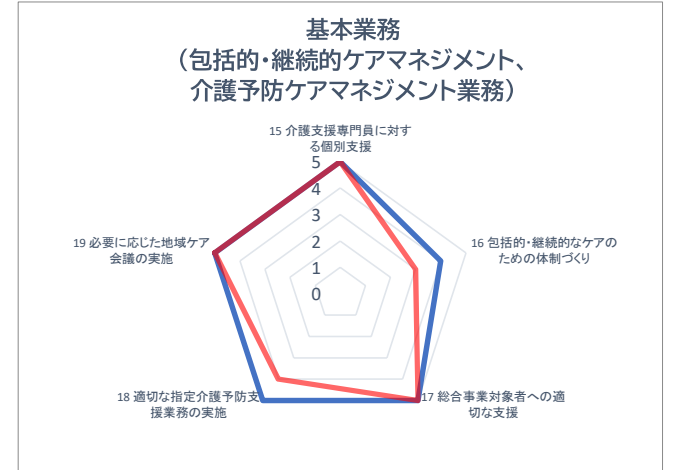
基本業務  
(総合相談支援業務、権利擁護業務)



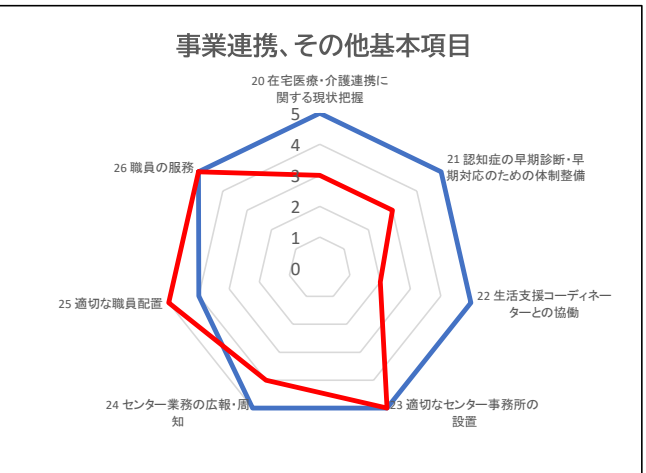
基本業務  
(包括的・継続的ケアマネジメント、  
介護予防ケアマネジメント業務)



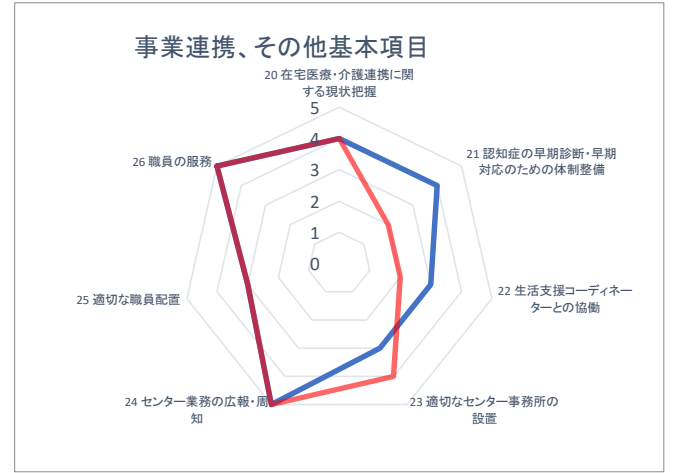
基本業務  
(包括的・継続的ケアマネジメント、  
介護予防ケアマネジメント業務)



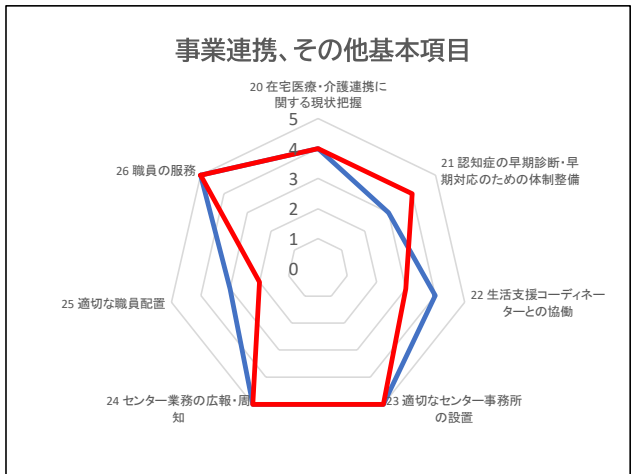
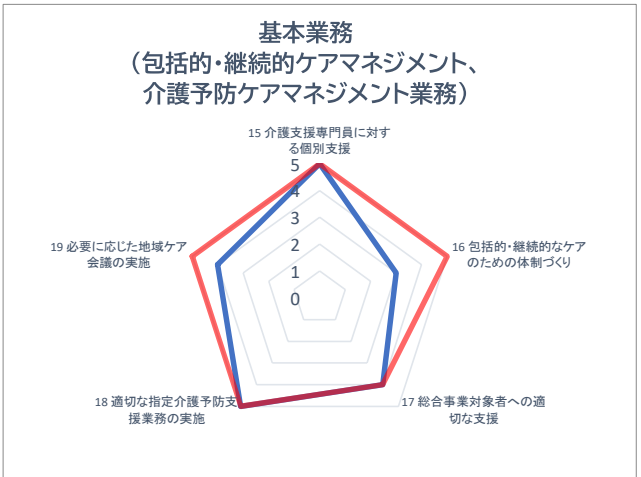
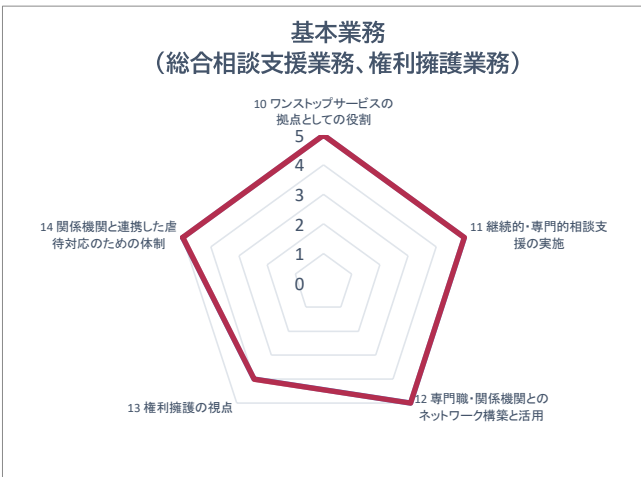
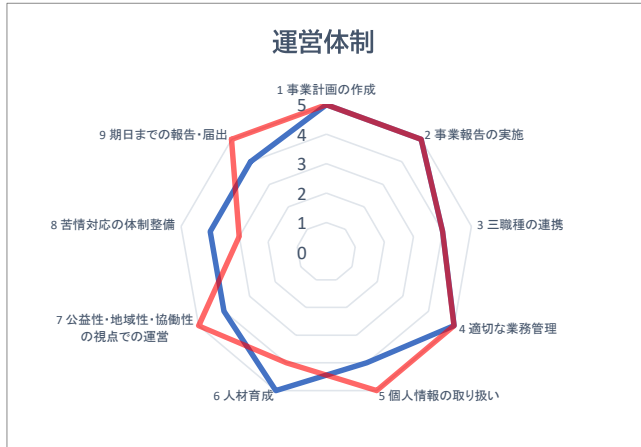
事業連携、その他基本項目



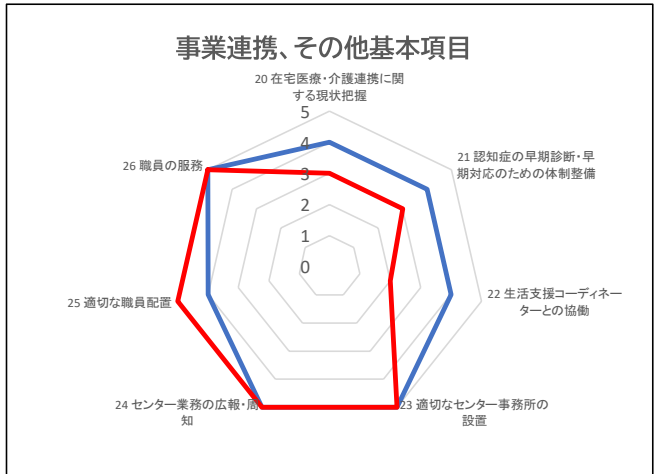
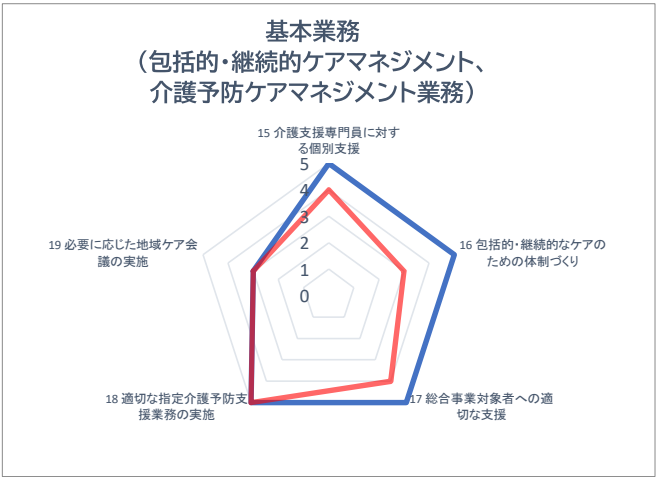
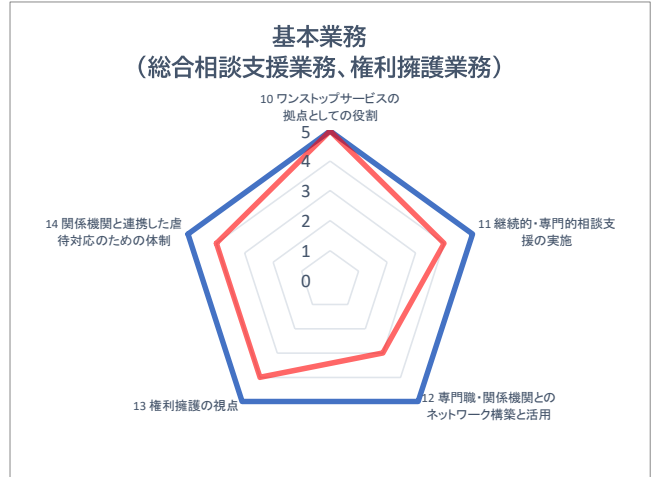
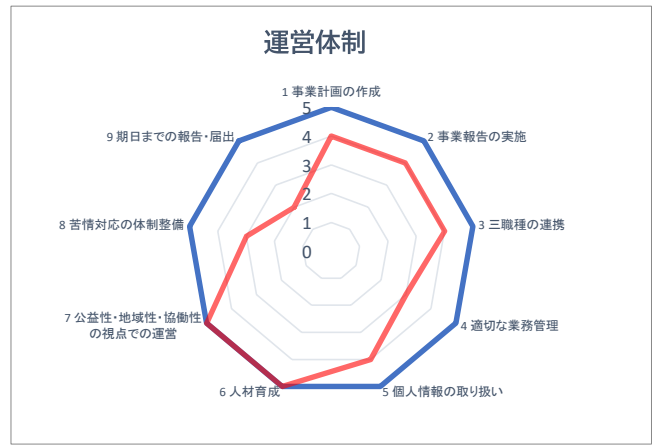
事業連携、その他基本項目



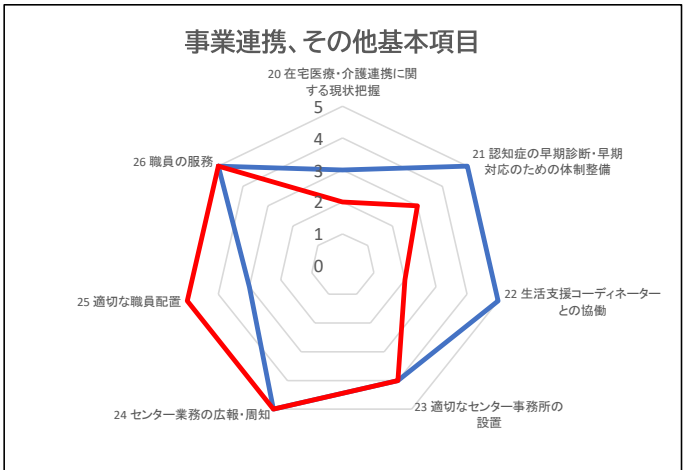
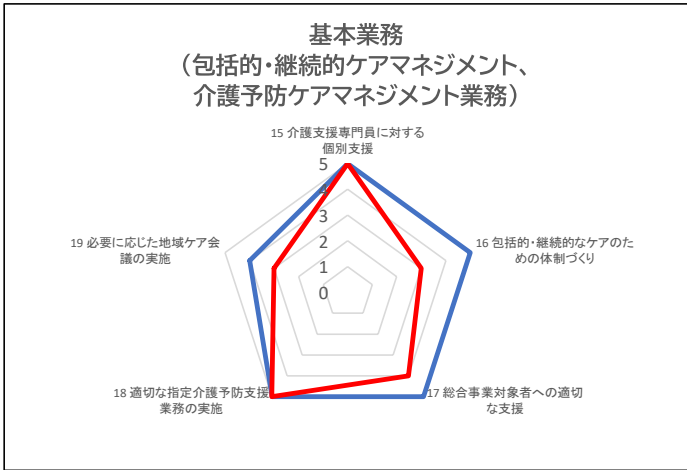
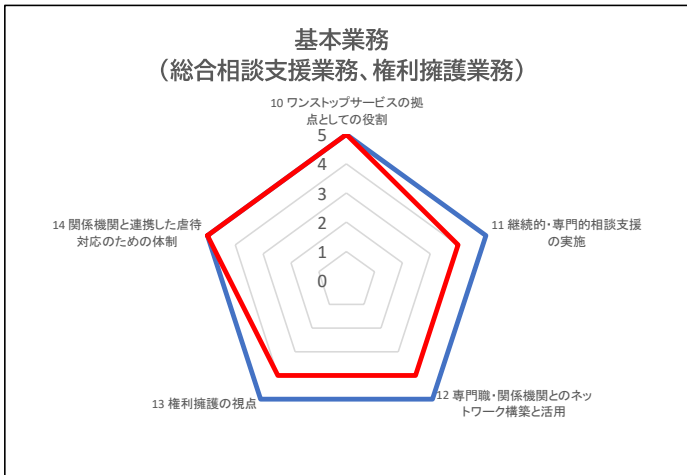
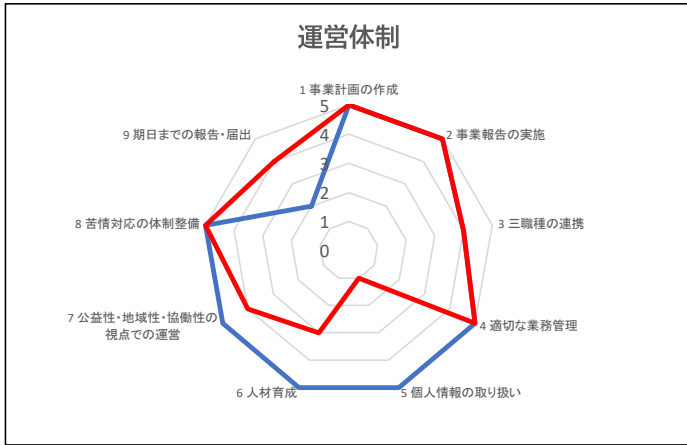
両河内



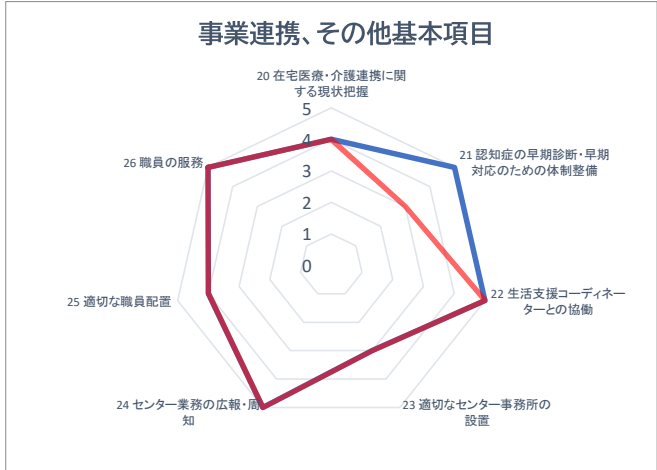
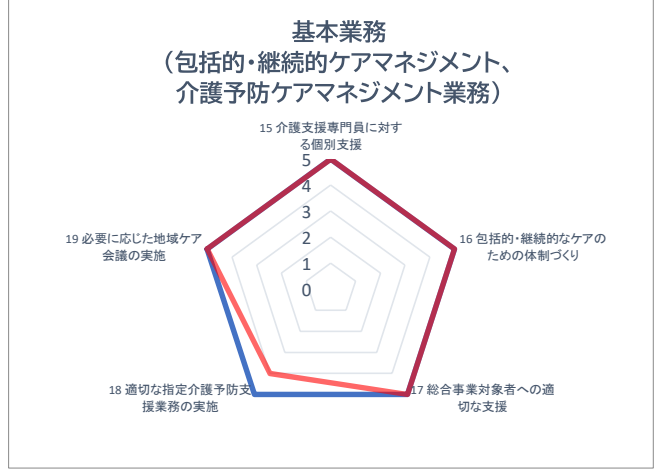
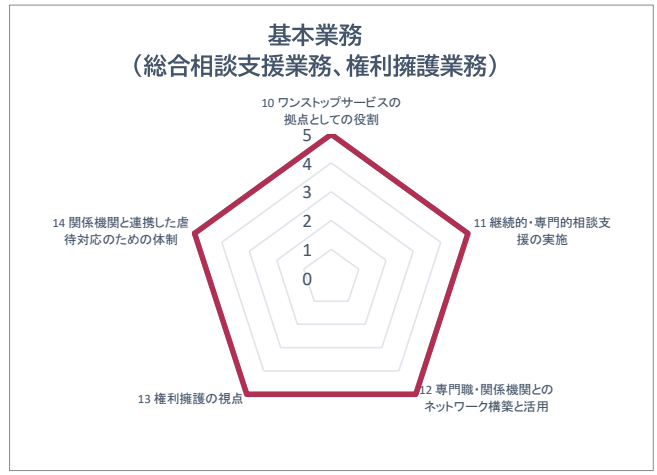
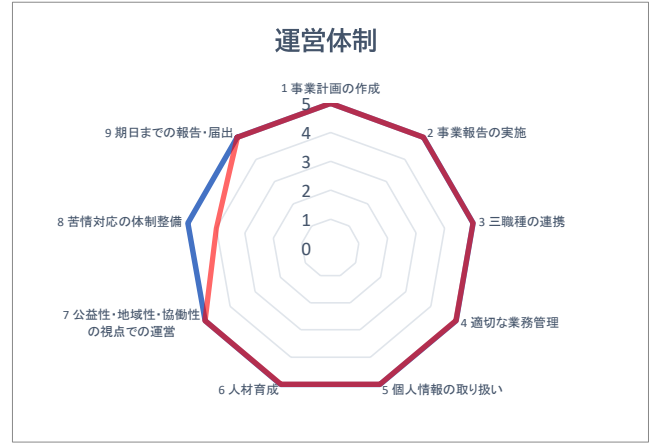
港南



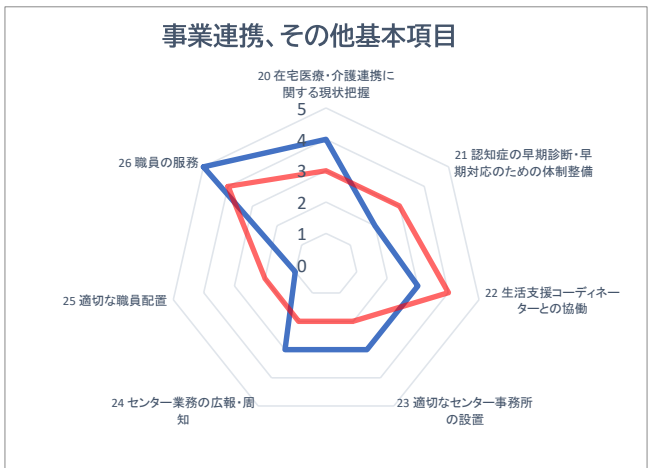
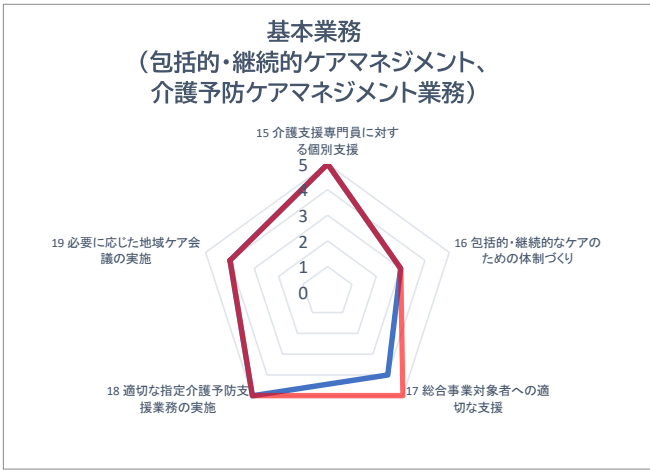
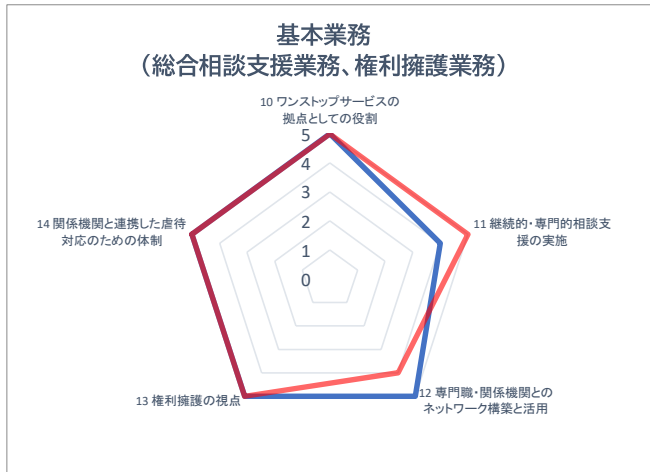
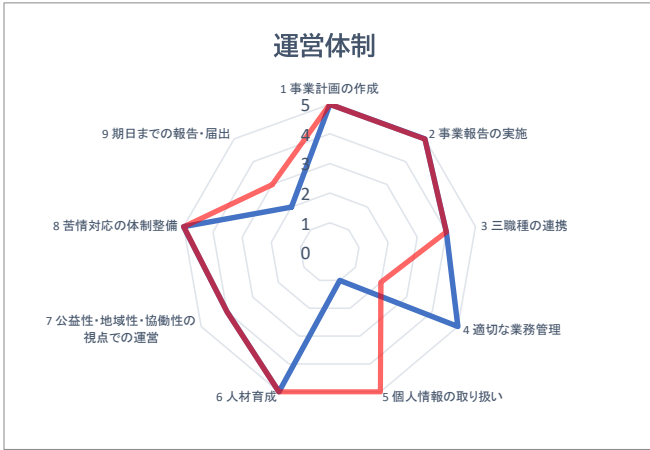
岡船越



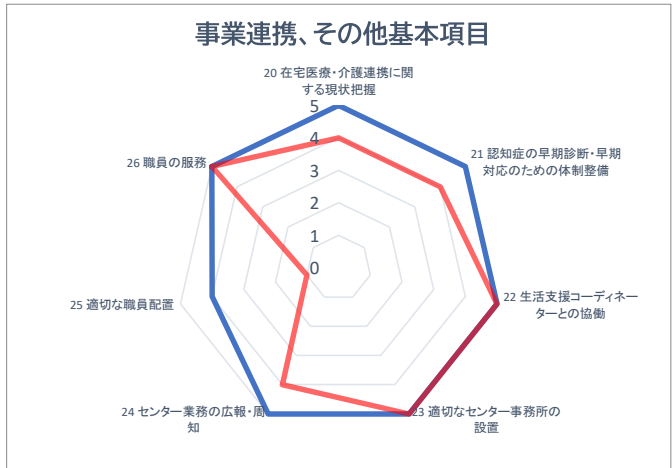
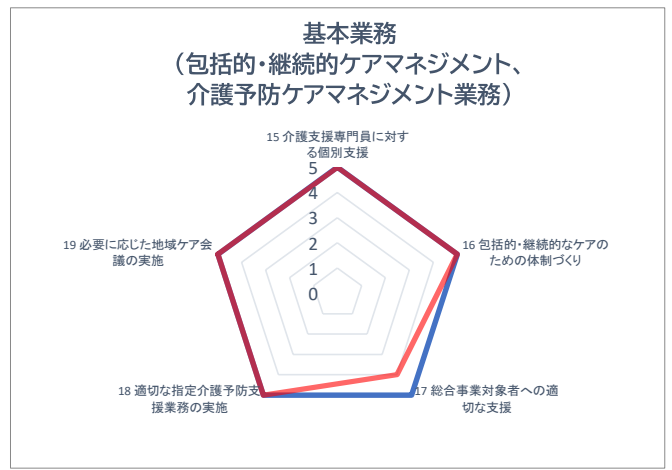
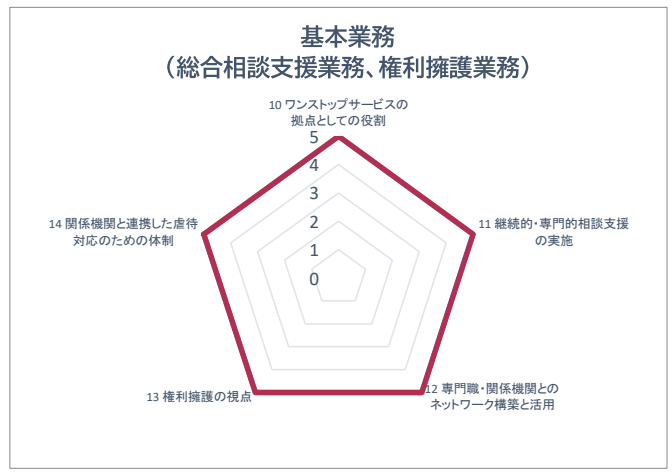
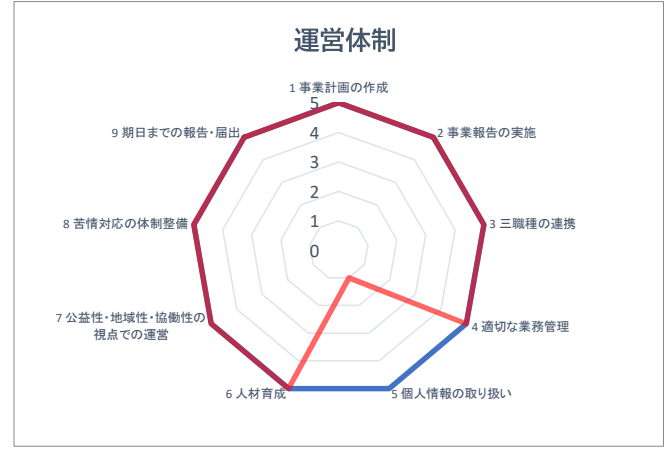
高部



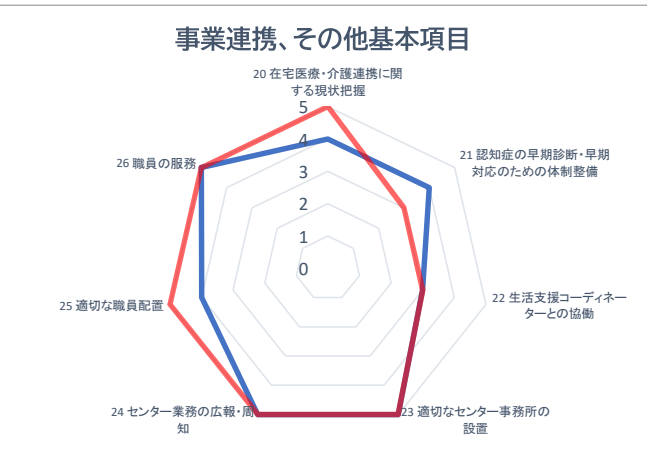
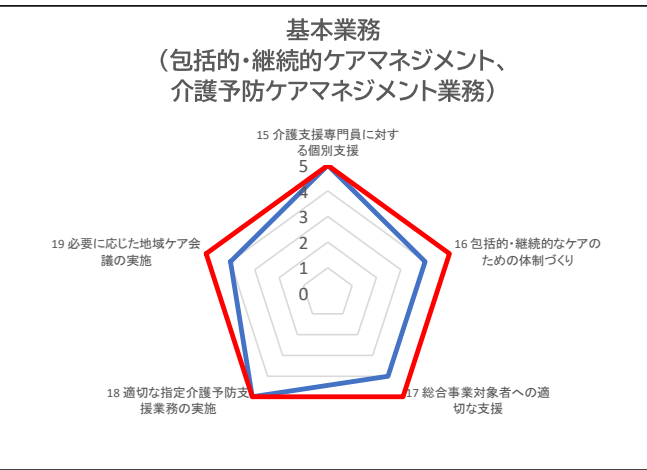
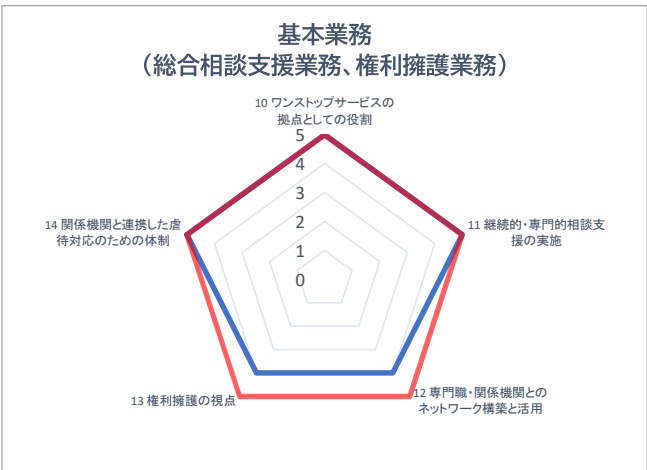
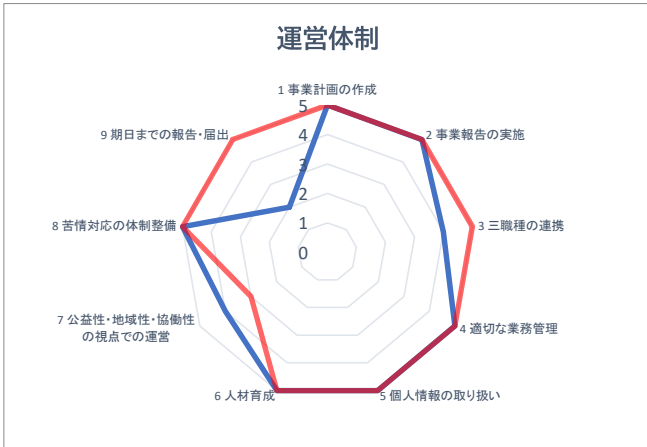
飯田庵原



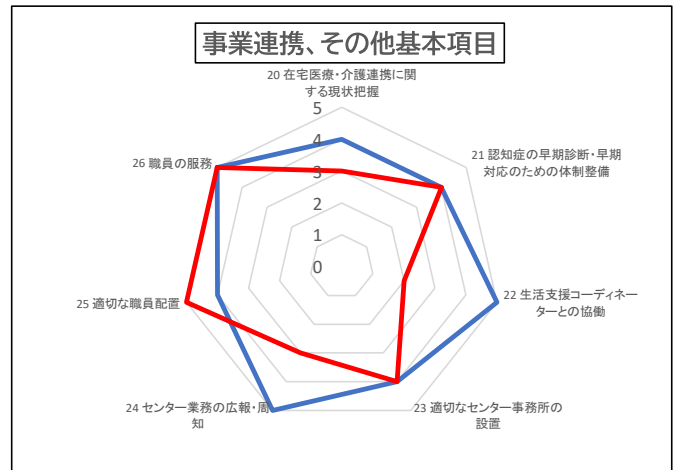
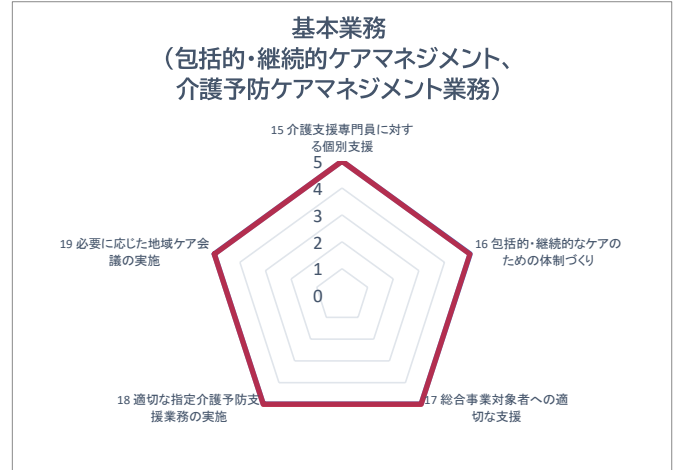
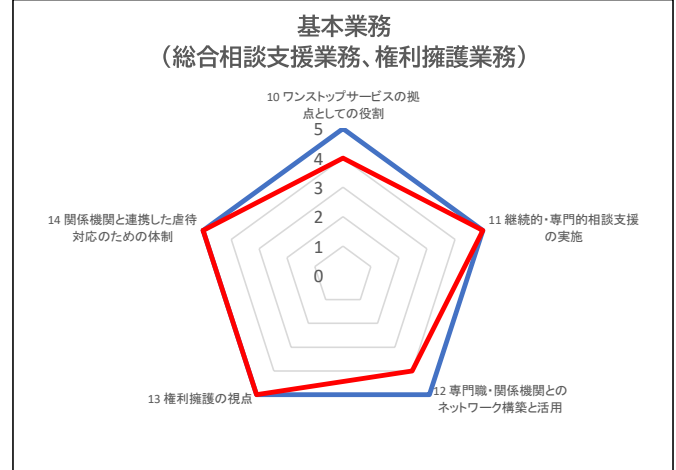
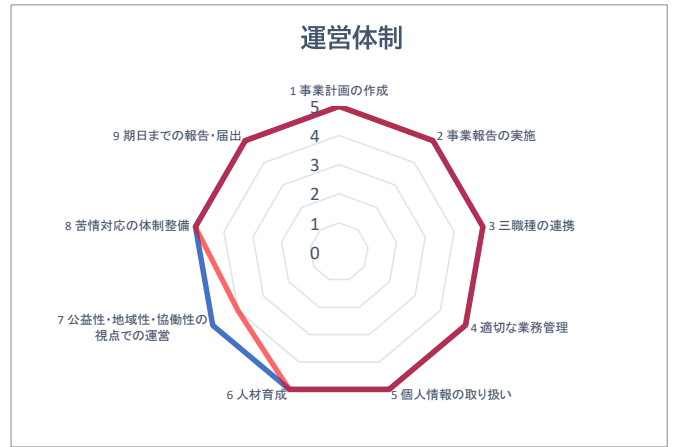
松原



有度



蒲原由比



## 令和7年度 基幹的業務の実施について

## 1 地域包括支援センター連絡会（まるけあ連絡会）の実施

目的：地域包括支援センター（以下センターとする）と地域包括ケア推進課及び関係機関、センター間の連携により、センター業務における課題解決を図り、円滑な業務遂行を支援する。

開催概要：月1回程度開催（センターの代表職員1名が参加）  
センターへの情報提供・事業説明、センター間の情報交換・共有等

実施月	内 容	関係機関等
4月	企画係、在宅医療・介護連携係、認知症施策推進係、地域支援系の事業紹介	地域包括ケア推進課
	終活情報登録・伝達事業について	安心感がある 温かい社会推進課
	ペットとの将来への備えに関する連絡事項	動物愛護センター
	ヘルパー派遣等に関する連絡事項	こども若者 相談センター
6月	重層的支援体制整備事業相談支援機関合同勉強会について	静岡県 社会福祉協議会
	静岡県ひきこもり地域支援センター「DanDan しずおか」の紹介	静岡県ひきこもり地域 支援センター
	難聴高齢者早期発見・支援事業について	高齢者福祉課
	第1回地域包括支援センター運営協議会の報告	地域包括ケア推進課
	OJT 評価シートの作成について	
8月	BCP 机上訓練（自然災害編）	地域包括ケア推進課
	加算算定と介護予防ケアプランの期間について	
	介護予防支援・介護予防ケアマネジメント管理表兼返還チェック表について	
10月	医療・介護連携推進センターの活動と事業の説明	医療・介護連携推進 センター
	静岡県地域リハビリテーション強化推進事業等の説明	静岡圏域地域 リハビリテーション 広域支援センター
	「静岡県不良な生活環境を解消するための支援及び措置に関する条例」の概要等について	廃棄物対策課

	ヤングケアラーへの支援について	こども若者 相談センター
11月	認知療法研修会の案内	こころの健康センター
	終活に関するリーフレットについて	安心感がある 温かい社会推進課
	地域ケア会議開催手引きの改訂に係るグループワーク	地域包括ケア推進課
12月	高齢者の保健事業と介護予防の一体的な実施事業について	健康づくり推進課
	地域活動支援センターに関わる今後の方針等について	精神保健福祉課
	高齢者虐待対応事例検証ケア会議の報告	地域包括ケア推進課
1月	消費者被害について	生活安全安心課
	認知症初期集中及び認知症しずメールについて	地域包括ケア推進課
	高齢者虐待防止ネットワーク運営委員会の報告	
	各協議会等の進捗状況報告	各協議会等委員
2月	静岡市共助による日常生活交通支援事業制度について	交通政策課
	認知症初期集中の進捗状況について	地域包括ケア推進課
	情報伝達訓練の報告	
	BCP 机上訓練（感染症編）	
3月 (予定)	第3回地域包括支援センター運営協議会の報告	地域包括ケア推進課

## 2 地域包括支援センター事業に係るヒアリング

### (1) 令和7年度事業計画について

令和7年4月22日（火）～5月8日（木） 全29センターへ訪問にて聞き取り

### (2) 令和7年度事業評価について

令和8年1月13日（火）～2月12日（木） 全29センターへ訪問にて聞き取り

## 3 地域包括支援センター職員研修等の実施（基幹的業務主催の研修のみ掲載）

時期	研修名	参加者
5月12日 ・19日	新規配属職員研修	地域包括支援センター職員
	静岡県社会福祉士会委託 内容：センターの意義・役割、その業務、他の専門職種との連携等、 必要な知識の習得及び技能の向上資する講義及び演習	各区高齢介護課の新職員等 12日：27名 19日：24名

5月27日	<b>高齢者虐待対応支援（権利擁護事業）に関する研修会</b> 講師：ふるい後見事務所 認定社会福祉士 古井慶治 氏 内容：高齢者虐待対応支援に関する講義及び演習	地域包括支援センター職員 各区高齢介護課の新職員等 28名
7月18日	<b>介護予防支援従事者研修会</b> 講師：地域包括ケア推進課職員 内容：様式の項目の意味を理解し、介護予防ケアプラン作成の時間短縮と日常業務の疑問解決を図るための講義及びグループワーク	地域包括支援センター職員 居宅介護支援事業所の介護支援専門員 59名
9月12日	<b>個人情報の保護に関する研修会</b> 講師：コンプライアンス推進課職員 内容：個人情報の取扱いに関する講義	地域包括支援センター職員 41名
9月30日	<b>地域包括支援センター職員ミニ研修</b> 講師：地域包括ケア推進課職員 内容：介護予防支援・介護予防ケアマネジメント業務委託の流れの説明と、グループワークによる日頃の業務についての意見交換等	地域包括支援センター職員 32名
10月21日	<b>地域包括ケア研修</b> 講師：社労士オフィスろーど 代表 大道和哉 氏 内容：カスタマーハラスメントから職場や自分を守るための講義及び演習	地域包括支援センター職員 35名
10月28日 11月11日 いずれか1日	<b>地域包括支援センター職員テーマ別研修 テーマA</b> 一般財団法人長寿社会開発センター主催 研修参加費用を地域包括ケア推進課が負担 ZOOMによるオンライン研修 内容：3職種が知っておきたい高齢者虐待防止・予防のスキル ～当事者の力を引き出す安全プログラム～	地域包括支援センター職員 各区高齢介護課の新職員等 18名
10月29日 11月18日 いずれか1日	<b>地域包括支援センター職員テーマ別研修 テーマB</b> 一般財団法人長寿社会開発センター主催 研修参加費用を地域包括ケア推進課が負担 ZOOMによるオンライン研修 内容：実践プロセスで学ぶ介護予防ケアマネジメントのあるべき姿	地域包括支援センター職員 5名

#### 4 地域包括支援センターOJT 評価シート作成検討会の実施

目的：OJT 評価シートを作成、活用することにより、地域包括支援センターにおける人材育成の組織的・継続的な仕組みの見える化及び職員の離職の防止を図る。

日 時：令和7年7月22日（火）・9月18日（木）・11月13日（木）・  
令和8年1月16日（金） ※全4回

出席者：各区2センターの代表者各1名

実施内容：OJT評価シート（新任期）の作成

※別紙「地域包括支援センター OJT評価シート 新任期」を参照

## 5 地域包括支援センターの周知

### （1）パンフレットの配布

目 的：①地域包括支援センターの役割、連絡先等の周知

②静岡市健康長寿のまち専用ウェブサイト「まるけあ」及び地域包括支援センターの愛称「まるけあ」の周知

③関係機関とのネットワーク形成への活用

使用例：・地域包括ケア推進課や庁内関係各課が開催する講演会等の関連イベントにて配布

・各地域包括支援センターからの依頼に応じ随時配付。各地域包括支援センターでは、センター内での配架や個別訪問時の配付のほか、近隣の商業施設、金融機関、民生委員、診療所、薬局、集会所等へ配架依頼、S型デイサービス等の地域の集まりに参加しての配布等、地域包括支援センターの周知のため活用

（2）静岡市広報への地域包括支援センターの特集記事の掲載（6月号）

（3）令和5年度に静岡大学グローバル共創科学部と連携し、作成した地域包括支援センターチラシの配架

（4）令和5年度に作成した、働く高齢者向けの地域包括支援センターチラシの配架

（5）市ホームページ及び健康長寿のまち専用ウェブサイト「まるけあ」への掲載

（6）権利擁護関係

・「高齢者虐待の防止と支援」～知ろう、気づこう、できること～

日 程：12月4日

会 場：葵生涯学習センター 1階 ホール

講 師：日本虐待防止研究・研修センター 代表 桜美林大学兼任講師 梶川義人 氏

内 容：高齢者虐待の種類等に関する講演

参加者：市民 67名

## 6 地域ケア会議開催支援

地域ケア会議への出席（令和8年2月末時点）

・自立支援プラン型地域ケア個別会議

14センター

・圏域地域ケア会議

12センター

自立支援プラン型地域ケア個別会議及び圏域地域ケア会議に出席し、開催状況や会議の内容の確認、助言等を実施。

## 7 その他

- (1) 相談対応（令和7年4月～令和8年2月末までの実績）
  - ・ 個別事例に関する相談及び業務に関する問合せへの対応 22件/月
- (2) 地域包括支援センター職員配置についての対応
  - ・ 配置職員の退職や異動により、配置人工が減少した受託法人との面談を実施
- (3) 地域包括支援センター運営部会への出席 6回/年
- (4) 災害対応
  - ・ 9月1日情報伝達訓練を実施
  - ・ 9月5日台風15号において、センターに必要な対応をするよう連絡。被災状況報告票による報告を受け付けた

## 《地域包括支援センターOJT 評価シートの使用についての説明会》

### 1【目的】

OJT 評価シートの活用および振り返りが適切に行うことができるように、地域包括支援センター対象に OJT の進め方や OJT 評価シートの記入方法の考え方についての説明会を実施します。

### 2【OJT によって期待される効果】

- 地域包括支援センターOJT 評価シートを活用することで、組織全体として共通認識を持ち、継続的に全職員がともに支え合い、育ちあう職場作りや離職の防止を図ります。
- OJT は研修会や勉強会で習得することが難しい実践力を身につけることができます。
- 自己評価だけでなく指導者による他者評価を入れることで自分で気づかなかった能力を見出すことができるとともに、今後何に取り組めばよいか、必要な能力を獲得できるかを具体的に考えることができます。
- OJT 評価シートは地域包括支援センター職員が年度ごとに頑張ることなどを記載することで、自身の経験や成長の過程を振り返るツールとなります。

### 3【活用及び評価・見直しについて】

職場全体で人材育成の重要性を認識し、「めざす職員像」の達成に向けて取り組みます。そのためのツールとして「地域包括支援センターOJT 評価シート」を活用し、組織全体として共通認識を持ち、継続的に全職員がともに支えあい、育ちあう職場の醸成を図ります。

なお、時代背景や社会情勢に合わせて、定期的に評価・見直しを行っていきます。

OJT は研修会や勉強会で習得することが難しい実践力を身につけることができるので、新人職員だけでなくベテラン職員等の人材育成においても活用ができ、日常の業務そのものである実践に対して、さまざまな場面で声かけし振り返りを促し、多様な場面で的確に応用する力を習得できると考えます。

センター長

《地域包括支援センター OJT評価シート 新任期》

学習者氏名		中間評価日 年 月 日 ( )	
指導者氏名		振り返り評価 年 月 日 ( )	

項目	新任期
めざすべき職員像	自らの力量を高めながら、日々の業務にあたる。
期待される力量	<ul style="list-style-type: none"> <li>センターの役割を理解した上で業務ができる。</li> <li>利用者等の話を聞き、ニーズを適切に把握した個別支援ができる。</li> </ul>
所属組織における役割	地域包括支援センターの新任者であり組織人及び専門職としての自覚を持つ。
責任を持つ業務の範囲	担当業務を的確に把握、理解し、個別事例に対して責任を持つ。
専門技術の到達レベル	ニーズに応じた対応を主体的に行う。

項目	達成目標	中間評価				振り返り評価						
		未経験	できない	指導のもとにできる	ひとりでできる	評価の視点	目標・方策の方向性	未経験	できない	指導のもとにできる	ひとりでできる	振り返り
センターの設置主旨や果たすべき基本的な役割を理解している。												
地域包括支援センターに関する理解	地域や関係機関に向けてパンフレットを用いて包括の業務、役割の説明ができる											

項目	達成目標	中間評価					振り返り評価					
		未経験	できない	指導のもとにできる	ひとりでできる	評価の視点	目標・方策の方向性	未経験	できない	指導のもとにできる	ひとりでできる	振り返り
個別ケースに対して、適切なアセスメントを行い、適正な個別支援計画を立案できる。												
個別支援 → 地域づくりへ	利用者、家族等のニーズを把握するために情報収集し、専門職の視点を持ってアセスメント、支援計画を立案できる											
	個別課題だけでなく、世帯全体の課題を把握することができる											
	利用者の状況に応じた必要な社会資源、制度を把握し伝えることができる											
介護予防支援・介護予防ケアマネジメントの業務の流れを理解し、給付管理業務を行う。												
給付管理に関する理解	ケアプランの作成、担当者会議、モニタリング、評価、給付管理の流れが理解、実践できる											
	契約の一連の流れを理解し、利用者、家族へ分かりやすく説明することができる											
	委託プランの確認ができる											

項目	達成目標	中間評価				振り返り評価						
		未経験	できない	指導のもとにできる	ひとりでできる	評価の視点	目標・方策の方向性	未経験	できない	指導のもとにできる	ひとりでできる	振り返り
自らの業務の内容等について、適切な報告・連絡・相談ができる。												
チームアップ ローチ職員間連携	職員間のコミュニケーションを円滑に行うことができる											
	報連相ができる											
	わからないことを発信し、確認・解決できる											
業務を行う上で必要な知識、技術の修得に積極的に取り組む。												
人材育成	与えられることを待つのではなく、自ら調べたり確認することができる											
	組織に属している自分の立ち位置を理解して、業務に取り組む											
	助言されたことを素直に受け入れることができる											
	根拠法（介護保険法、虐待防止法等）及び市が提示しているマニュアルを理解する											
	支援経過記録や報告書等を目的に沿って記録できる											

項目	達成目標	中間評価					振り返り評価				
		未経験	できない	指導のもとにできる	ひとりでできる	評価の視点	目標・方策の方向性	未経験	できない	指導のもとにできる	ひとりでできる
災害時・緊急時におけるセンターや自らの役割を理解している。											
センター運営及びリスクマネジメント	地域包括支援センターの災害時対応マニュアルを理解している										
地域特性を理解する											
地域の状況	地域に興味関心を持ち、地域特性を説明できる										
	地域の会議やサロンに出席し、情報提供や情報共有ができる										

項目	達成目標	中間評価					振り返り評価					
		未経験	できない	指導のもとにできる	ひとりでできる	評価の視点	目標・方策の方向性	未経験	できない	指導のもとにできる	ひとりでできる	振り返り
利用者・家族等に応じたコミュニケーションができる。												
コミュニケーション	バイステックの原則にそった対応ができる											
	専門用語を控えわかりやすい説明ができる											
	利用者、家族等の気持ちや状況、理解度に応じて説明、対応できる											
圏域の住民や関係者に対して、センターの役割、地域包括ケア等について適切に説明することができる。												
ネットワークづくり	地域資源を活用することができる											
	民生委員や地域組織の関係者と相談できるよう、顔の見える関係づくりができる											
	関係機関につなぐことができる											

項目	達成目標	中間評価					振り返り評価					
		未経験	できない	指導のもとにできる	ひとりでできる	評価の視点	目標・方策の方向性	未経験	できない	指導のもとにできる	ひとりでできる	振り返り
センターの一員としての自覚をもって、センターの行う事業に積極的に行動する。												
事業展開	住民からの声をセンター内の話し合いの場で相談できる											
	包括として支援方針を、根拠をもって住民に説明できる											
	センター内で相談しながら、本人や家族の意向に沿った支援を行うことができる											
センターの一員として、圏域住民や幅広い関係者にセンターの役割等を正しく説明することができる。												
センターの周知	必要な場面でセンターの説明ができる											
	パンフレットを活用するための事前準備ができる											

項目	達成目標	中間評価					振り返り評価					
		未経験	できない	指導のもとにできる	ひとりでできる	評価の視点	目標・方策の方向性	未経験	できない	指導のもとにできる	ひとりでできる	振り返り
市における地域包括ケアシステム推進に向けた方針を理解する。												
地域包括ケアシステムの方針	地域包括ケアシステムの概要を理解する											
	地域ケア会議の目的を理解する											
センターの事業について、評価を行う意義を理解する。												
センター事業の評価	月報を的確に入力できる											
活動の理念である社会的公正性・公共性について理解し、活動を倫理的に判断できる。												
包括職員の活動基盤	市民の立場で考え、市民と協議し、高い倫理観を有し、責任と使命感を持って、明るく誠実に業務に取り組むことができる											
	法令や服務規律を遵守し、誠実かつ公正に職務を遂行することができる											
	将来の社会情勢を見据えて、時代に応じた取り組みの視点を持つことができる											

## 令和7年度 地域包括支援センター運営部会報告（葵区）

## 1 開催日程

	開催年月日	出席委員数	開催場所
第1回	令和7年7月9日	委員7名	静岡市こころの健康センター 研修室
第2回	令和8年2月18日	委員6名	城東保健福祉エリア 保健福祉複合棟 第1・2研修室

## 2 地域におけるネットワークの活用状況について（特徴的な取り組みなど）

- (1) 介護保険事業所や医療機関、自治会や民生委員等の地区組織との連携はもとより、各包括圏域の状況に応じて小中学校や郵便局、金融機関等、山間地においては集落支援員や保健福祉センター、お寺等と連携が図られている。
- (2) 研修等の開催を通じて関係を構築するだけでなく、自立支援プラン型地域ケア会議を通じて連携を図ることで地域の共通課題を検討・共有することにも繋げ、課題解決に取り組んでいる。
- (3) 地域住民や介護保険事業所等とともに社会資源マップの作製に取り組むことで、顔が見える関係づくりになるよう支援している。

## 3 今後に向けた課題・意見等

- (1) 前年度に引き続き、包括によっては人員不足が継続している。包括の受託法人による体制整備が必要であることはもちろんだが、行政にも人員確保のための支援を積極的に行っていただきたい。
- (2) 民生委員が不在の地域が年々増えている。支援を要する住民がいても民生委員から包括へ相談がなく、支援等が遅れる可能性がある。また、民生委員の役割を包括がカバーしている地域もあり、本来の包括の活動が難しくなる懸念がある。

## 4 次年度 of 取組み・地域包括支援センターへの期待等について

- (1) 本年度、民生委員の改選があり、新任の民生委員も多い。研修や勉強会を通じ、関係構築に努めていただきたい。
- (2) 地域資源マップの作製に取り組む包括がいくつかあるが、配布する対象者や目的等を関係者間で整理し作成することで効果的な運用に繋げていただきたい。
- (3) 認知症について多くの人が知っているが、認知症をオープンにできる地域づくりの実現に向けて、普及啓発等に取り組んでいただきたい。

## 令和7年度 地域包括支援センター運営部会報告(駿河区)

### 1 開催日程 小鹿豊田/八幡山/大谷久能/大里中島/大里高松/長田/丸子…7 地域包括支援センター

	開催日	出席委員	会場	内容
第1回	令和7年6月17日	7名	駿河区役所 大会議室	自己紹介・事業計画・意見交換 新規事業「 <u>終活支援事業</u> 」の紹介
第2回	令和8年2月10日	7名	静岡市地域福祉共生センター 「みなくる」第二会議室	事業報告・意見交換 今年度駿河区運営部会のとりまとめ

### 2 地域におけるネットワークの活用状況について（特徴的な取り組みなど）

#### (1) 地域の見守りと居場所づくり

- ・「みまもりたい」、自治会の福祉部の活動等が、困りごとの早期発見につながっている。
- ・地域独自の取り組み(例) … 顔の見える参加型の活動による見守り、居場所づくり
  - ①認知症カフェ ②自宅ですっとミーティング(和尚さんの講話なども実施) ③自主グループによる体操
  - ④身近なテーマでの講座の開催 など

#### (2) 認知症、フレイル予防

- ・専門職による介護予防講座や出前講座の開催(認知症、フレイル予防、転倒予防、口腔ケア など)
- ・地域独自の取り組み(例) ①地域ささえあいマップの作成 ②南部図書館での認知症イベントの開催
  - ③小学生の児童クラブでの「認知症サポーター養成講座」の実施 など

#### (3) 関係機関、専門職との連携、地域の社会資源の活用

- ・専門職(医療職、心理、理学療法士、民生委員など)による講座開催による連携
- ・地域の社会資源(病院、薬局、銀行、郵便局、交番、スーパー、寺など)の活用 (情報発信、講師依頼など)

### 3 今後に向けた課題・意見等

#### (1) 地域包括支援センターの周知

- ・困った時の地域支援の拠点としての「地域包括支援センター」の認知度アップ (広報誌、チラシ配架)

#### (2) 持続的な活動のための次世代の育成と役割分担

- ・地域で幅広い世代に支援の輪(助け合い)を広げる取り組み(地域イベントへの参加、若い世代の育成)
- ・深刻なケアマネのシャドーワークの解消(ケアマネサロンによる多職種交流、地域資源や多職種へのつなぎ)

### 4 次年度の取組み・地域包括支援センターへの期待等について

#### (1) 複合的な問題への支援の連携強化

- ・複雑な家族事情による虐待など、多方面の支援が必要なケースでの関係機関の連携による対応力の強化
- ・困りごとを抱えている高齢者や家族(認知症など)の早期発見のための活動の継続(見守り、情報発信)

#### (2) さまざまな世代への情報発信

- ・多くの人が集まる場所(スーパー、薬局、銀行、図書館など)を活用した広報活動、イベント参加の拡大
- ・若い世代(子どもも含め)への認知症理解などに向けた講座の継続

## 令和7年度 地域包括支援センター運営部会報告（清水区）

## 1 開催日程

	開催年月日	出席委員数	開催場所
第1回	令和7年7月31日	委員8名	清水保健福祉センター3階視聴覚室
第2回	令和8年2月5日	委員7名	清水保健福祉センター3階視聴覚室

## 2 地域におけるネットワークの活用状況について（特徴的な取り組みなど）

- (1) ボランティア団体への勉強会やシニアクラブでの出張相談会を開催、包括独自で作成した手帳を活用する等、効果的な包括の周知が図られている。地区まつり等の地域行事や小中学校福祉教育の場また、大学サークルを活用し若い世代へも包括を周知している。
- (2) 令和4年の台風15号等風水被害を機に、防災意識や地域の自助への関心の高まりもあり、平常時からの備えについて勉強会を実施している。
- (3) 認知症や認知症ケアについて、20代からの若い世代を含む地域住民参加の認知症高齢者徘徊訓練、ボランティア団体「お助け隊」の活動支援や民生委員による地域内の施設見学、銀行や郵便局と連携する等、地域の特性を踏まえ理解を深める活動を行っている。
- (4) 地域ケア会議では課題により、地域住民、医療・介護・障害・福祉等の関係者を巻き込むことで、多職種による多角的視点から検討が行えることや会議を通じてネットワーク機能の構築に繋がっている。

## 3 今後に向けた課題・意見等

- (1) 認知症の理解はもちろん、特殊詐欺被害者は身近で聞くことがあり予防・啓発について、一つの地域包括支援センターだけでなく隣接する地域包括支援センターと合同で行うことや行政と連携する等の工夫をして、全地域包括支援センターで行ってほしい。
- (2) まるけあ手帳、社会資源マップなど独自の資料を作成することや、地区まつりでのアンケート、小学生や中学生には福祉教育でまた大学生のサークルに参加することで地域包括支援センターの周知率を上げることができている。
- (3) 職員定員数の不足により職員に負担がかかっているため、体を壊さず仕事をして欲しい。

## 4 次年度の取組み・地域包括支援センターへの期待等について

- (1) 住民や多職種を巻き込むためのツールとして、地域ケア会議や自宅ですっとミーティング、勉強会等を活用し、福祉職以外の専門職との連携・協働関係の構築と強化を図り、生活課題の発見・共有・課題解決に取り組んでほしい。
- (2) ボランティアの人材育成講座の取り組みは、参加者が「やりがい」を持ち介護予防に良い影響を及ぼすため、継続して欲しい。
- (3) 難聴と認知症リスクについて、清水医師会でもプロジェクトが進行中であるため、共同してすすめて効果的な活動にしてほしい。
- (4) 動物ペットや終活・防災の課題について、その道の専門職も巻き込み連携をしながら、地域住民の意識向上を目指せるような取り組みや働きかけをしていただきたい。

資料 3

## 令和 8 年度以降の 地域包括支援センターの委託について

R8.3.13 (金)

1

## 目次

1. 第 2 回運営協議会報告時からの  
変更点 (精算免除条件 (井川除く))
2. 見積執行結果 (R8.2.17実施)
3. 見積執行後 (R8.2.17) の対応
4. 次回契約更新時の実施方法

2

## 1. 第2回運営協議会報告時からの変更点（精算免除条件（井川除く））

### 変更前

配置人数基準を下回る期間が  
連続**30日**以内である場合は、  
配置人数基準を満たしているとみなし、  
精算を免除する。



### 変更後

配置人数基準を下回る期間が  
連続**90日**以内である場合は、  
配置人数基準を満たしているとみなし、  
精算を免除する。  
なお、産前産後休業は、  
配置人数基準を下回る期間に含めない。

### 変更のポイント：精算を免除する条件

- 第2回運営協議会后に、現受託者に聞き取りを実施したところ、30日以内での人員補充は困難との意見が多数であった。一方で、免除条件日数の長期化は、精算効果（不公平解消、業務質の確保、契約の適正履行）の低下に繋がることから、人員補充に要する期間として最も多く挙げられた90日程度との意見を踏まえ、免除条件日数を90日に見直した。
- 労働基準法により就労させること自体が禁止される法定休業である産前産後休業については、受託者の人員配置上の判断とは切り分けて考える必要があるため、配置人数基準を下回る期間には算入しない。

1

3

## 2. 見積執行結果（R8.2.17実施）

### (1) 葵区

No	圏域	落札者（R8～R10年度の受託者）	【参照】現受託者（～R7年度）	受託者の変更
1	城西	(医) 盈進会	盈進会	無
2	安西番町	(福) 静和会	静和会	無
3	城東	(福) 静岡市社会福祉協議会	静岡市社会福祉協議会	無
4	井川	(福) 静岡市社会福祉協議会	静岡市社会福祉協議会	無
5	伝馬町横内	(福) 静和会	静和会	無
6	城北	(福) 静和会	駿府葵会	有り
7	千代田	(福) 静和会	静和会	無
8	長尾川	(福) 天心会	天心会	無
9	美和	(福) 楽寿会	楽寿会	無
10	賤機	(福) 楽寿会	楽寿会	無
11	安倍	(福) 楽寿会	楽寿会	無
12	服織	(福) 駿河会	駿河会	無
13	藁科	(福) 駿河会	駿河会	無



2



4

## 2. 見積執行結果（R8.2.17実施）

### (2) 駿河区



No	圏域	落札者（R8～R10年度の受託者）	【参照】現受託者（～R7年度）	受託者の変更
14	小鹿豊田	(福) 恩賜財団済生会支部 静岡県済生会	恩賜財団済生会支部 静岡県済生会	無
15	八幡山	(株) アクタガワ	アクタガワ	無
16	大谷久能	(福) 駿府葵会	駿府葵会	無
17	大里中島	(福) 静岡市社会福祉協議会	静岡市社会福祉協議会	無
18	大里高松	(福) 天竜厚生会	天竜厚生会	無
19	長田	(福) 静和会	静和会	無
20	丸子	(福) 静和会	静和会	無



3

5

## 2. 見積執行結果（R8.2.17実施）

### (3) 清水区

不調となった案件については、  
見積執行結果の詳細は公表して  
いません。



No	圏域	落札者（R8～R10年度の受託者）	【参照】現受託者（～R7年度）	受託者の変更
21	港北	(福) 静岡市社会福祉協議会	静岡市社会福祉協議会	無
22	興津川	(福) 清承会	清承会	無
23	両河内	(福) 花園会	花園会	無
24	港南	(一社) 静岡市清水医師会	静岡市清水医師会	無
25	岡船越	(福) 恵和会	恵和会	無
26	高部	(福) 清水福祉会	清水福祉会	無
27	飯田庵原	(福) 駿府葵会	セントケア中部	有り
28	松原	不調	静岡市社会福祉協議会	未定
29	有度	(福) 恵和会	恵和会	無
30	浦原由比	(福) 静岡市社会福祉協議会	静岡市社会福祉協議会	無



4

6

### 3. 見積執行後(R8.2.17)の対応

#### (1) 受託者変更した圏域

(城北、飯田庵原)

- ✓ 引継ぎ
- ✓ 地元説明
- ✓ 関係者説明

#### (2) 受託者未定の松原圏域

R8.4.1からの確実な業務開始に向け、再度の見積執行を検討・調整中。



受託者が変更した場合は…

- ✓ 引継ぎ
- ✓ 地元説明
- ✓ 関係者説明

5

7

### 4. 次回契約更新時の実施方法

R8年度からの契約については、業務内容が明確であったことから、見積執行により実施しました。次回契約更新時の実施方法については、社会情勢等により適切な手法が変わり得るため、現時点では特定せず、その時点の状況に応じて最も適切な方法により実施します。

	見積執行	プロポーザル
運用の考え方	本市における原則的な契約実施方法の1つ (地方自治法第234条の趣旨を踏まえ、競争性を確保する方法)	例外的な手法 (業務内容を仕様書で一律に定められず、提案内容の差が業務成果に影響する場合に実施)
適した業務	法令等により業務内容・実施条件が明確で、提案による差が生じにくい業務	業務の進め方や実施体制の提案により、成果に大きな差が生じる業務
通知時期	2月上旬 ～ 2月中旬 頃	2月上旬 ～ 2月中旬 頃
受託者決定時期	2月中旬 ～ 2月下旬 頃	3月下旬 頃
受託者決定基準	見積金額	提案内容 (実施体制・方針、企画内容等)

6

8